

# 武道経験と国民性に関するアンケート調査

## 調査報告書



2026

鹿屋体育大学

生涯スポーツ研究室



## はじめに

日本の伝統文化である武道は、単なる身体運動の枠を超え、人格形成や道徳教育の場として重要な役割を担ってきた。特に現代社会においては、武道教育を通じて培われる精神性や倫理観が、個人のアイデンティティ形成にどのような影響を及ぼしているのかを客観的に把握することが求められている。

本調査は、武道実践者を対象として、武道の教育効果が国民性に及ぼす影響を明らかにすることを目的としている。これにより、日本における武道教育のさらなる発展に資するための基礎資料を得ることを目指したものである。

調査の実施にあたっては、全日本剣道道場連盟に加盟する道場の会員を母集団とし、Webアンケートおよび郵送法を併用した大規模な調査を全国的に展開した。2025年8月28日から11月30日までの調査期間において、最終的に718名の有効回答を得るに至った。

本報告書では、武道の実施状況や取り組み姿勢、実践を通じて得られた自己形成上の効果、ならびに自国に対する意識（ナショナル・アイデンティティ）について詳細な分析結果を示す。これらの知見が、今後の武道教育の在り方やその社会的意義を検討する上での一助となれば幸いである。

研究代表者

鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系  
教授 北村尚浩



## 目次

調査報告書概要：武道経験と国民性に関するアンケート調査.....	- 3 -
<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>- 5 -</b>
<b>1. 調査概要</b> .....	<b>- 5 -</b>
1) 調査の目的.....	- 5 -
2) 調査対象及び調査方法.....	- 5 -
3) 調査内容.....	- 5 -
4) 問い合わせ先.....	- 6 -
<b>2. 回答者の属性</b> .....	<b>- 6 -</b>
<b>II. 結果</b> .....	<b>- 7 -</b>
<b>1. 武道実施状況</b> .....	<b>- 7 -</b>
1) 活動状況.....	- 7 -
2) 武道への取り組み（意識・態度）.....	- 9 -
3) 武道による自身への効果について.....	- 10 -
4) 武道必修化による中学生への効果について.....	- 13 -
<b>2. 国民性（自分の国に対する意識）</b> .....	<b>- 17 -</b>
<b>III. まとめ</b> .....	<b>- 19 -</b>
<b>IV. 今後の課題と提言</b> .....	<b>- 20 -</b>
おわりに.....	- 21 -
<b>V. 付録</b> .....	<b>- 22 -</b>
自由記述回答一覧（自身への効果）.....	- 22 -
自由記述回答一覧（中学校での武道必修について）.....	- 37 -



## 調査報告書概要：武道経験と国民性に関するアンケート調査

### 1. 調査の目的と方法

本調査は、武道実践者を対象として、武道の教育効果が国民性（ナショナル・アイデンティティ）に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

- 調査対象：全日本剣道道場連盟に加盟する道場会員
- 抽出方法：比例層化無作為抽出法により 997 道場を選定
- 調査手法：Web アンケート（Microsoft Forms）および郵送法
- 有効回答数：718 件（有効回答率 94.5%）

### 2. 回答者の属性

回答者の平均年齢は 50.8 歳であり、男性が 84.9% を占める。継続年数は平均 39.5 年であり、七段（31.0%）をはじめとする高段者が中心の構成となっている。

### 3. 主要な調査結果

#### ① 武道に対する意識と自身への効果

回答者の 97.1% が「武道を通じて自分自身を成長させられる」と回答し、92.0% が「武道は日本の文化を理解するのにふさわしい」と認識している。自由記述の質的分析では、武道の実践が「対人理解・内面的省察」や「倫理的価値観」の向上に寄与しているだけでなく、職場や社会生活における忍耐力や人間関係構築といった「日常生活への波及」効果をもたらしていることが示された。

#### ② 中学校武道必修化への評価

中学生に対する教育効果として、「礼儀作法の身体的習得」や「伝統文化としての理解と継承」が強く期待されている。特に、打突を伴う身体経験を通じて「他者の痛みを知る」という共感的態度の育成が重要視されている。一方で、限られた授業時間や指導者の資質により、効果が限定的になるとする懸念も一部で示された。

#### ③ 国民性とアイデンティティ

回答者の自国（日本）に対する帰属意識は極めて高く、9 割以上が日本人であることに満足し、誇りを持っている。日常的な文化享受や歴史学習への意欲は高い（約 8 割）ものの、伝統行事への積極的な参加は 43.0% に留まっている。このことから、実践者の国民性は「外部への積極的な行動」よりも、「精神的・感情的な誇り」として強く内面化されている傾向が明らかとなった。

### 4. 結論と提言

武道は個人の人格形成と強固なナショナル・アイデンティティの形成を支える極めて有効な教育資源である。今後は、内面化された誇りを具体的な社会貢献や伝統継承の実践へと繋げる動機づけとともに、学校教育において武道の本質的な教育力を担保するための指導体制の体系化が求められる。



# Ⅰ. 調査の概要

## 1. 調査概要

### 1) 調査の目的

本調査では、武道実践者を対象として、武道の教育効果として国民性に及ぼす影響を明らかにし、日本における武道教育の発展に資するための基礎資料を得ることを目的としている。

### 2) 調査対象及び調査方法

全日本剣道道場連盟に加盟している道場に所属する会員を対象として、Microsoft Forms を用いた Web アンケート、および郵送法による質問紙調査を実施した。

実施にあたっては、同連盟の全加盟道場（ $N=2,295$ ）を母集団とし、都道府県ごとの加盟道場数の構成割合に応じた比例層化無作為抽出を行った。目標サンプルサイズを 1,000 道場として抽出した結果、最終的に 997 道場を対象とした。

抽出された 997 道場の代表者宛てに、調査協力依頼文および Web アンケートの URL を示した QR コードを郵送し、所属会員への周知を依頼した。なお、Web での回答が困難であり質問紙を希望した道場に対しては、別途質問紙を郵送し、記入後に返送を求める対応をとった。

調査期間は 2025 年 8 月 28 日から 2025 年 11 月 30 日である。最終的に 760 名から回答が得られ、有効回答数は 718（有効回答率 94.5%）であった。

### 3) 調査内容

表 1 調査内容

要因群	項目
武道（剣道）実施状況	① 1年以上の継続経験がある武道、② 現在最もよく行っている実施種目、③ 段位、④ 開始年齢、⑤ 稽古参加頻度（回／週）、⑥ 稽古時間（分／回）、⑦ 大会出場経験
武道への取り組み	① 武道に対する意識・態度を問う 10 項目（5段階リッカート尺度）
武道の教育効果	① 実践を通して自身が得られた効果（自由記述）、② 中学校の武道学習による教育効果（自由記述）
国民性 （ナショナル・アイデンティティ）	① 自分の国に対する意識・行動を問う 15 項目（5段階リッカート尺度）
個人属性	① 性別、② 年齢、③ 自分の国だと思う国

調査内容を表 1 に示している。全 5 要因で構成されており、武道実施状況として、① 1年以上継続して行った経験のある武道、② 現在最もよく行っている武道、③ 段位、④ 開始年齢、⑤ 稽古参加頻度、⑥ 稽古時間、⑦ 大会出場経験の 7 項目、武道への取り組みとして、武道に対する意識・態度 (10 項目)、武道の教育効果として、① 自身が得られた効果 (自由記述)、② 中学生に対する教育効果 (自由記述) の 2 項目、個人属性として、① 性別、② 年齢、③ 自分の国だと思う国の 3 項目、国民性として、① 自分の国に対する意識・行動 (15 項目) を設定した。

#### 4) 問い合わせ先

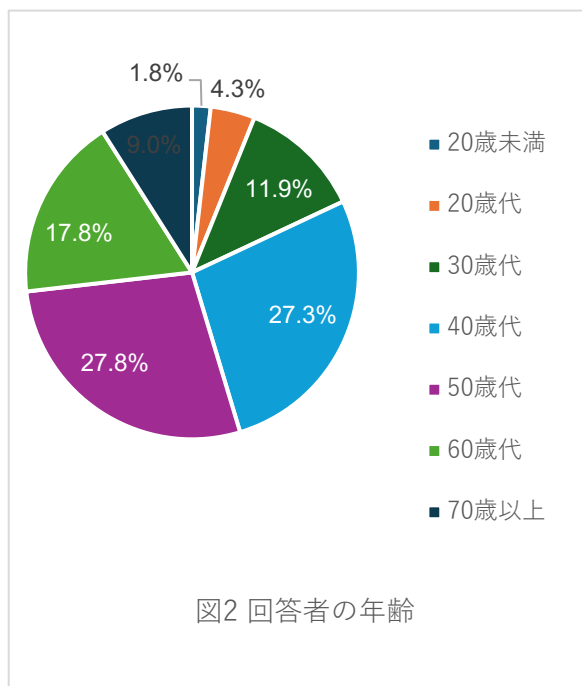
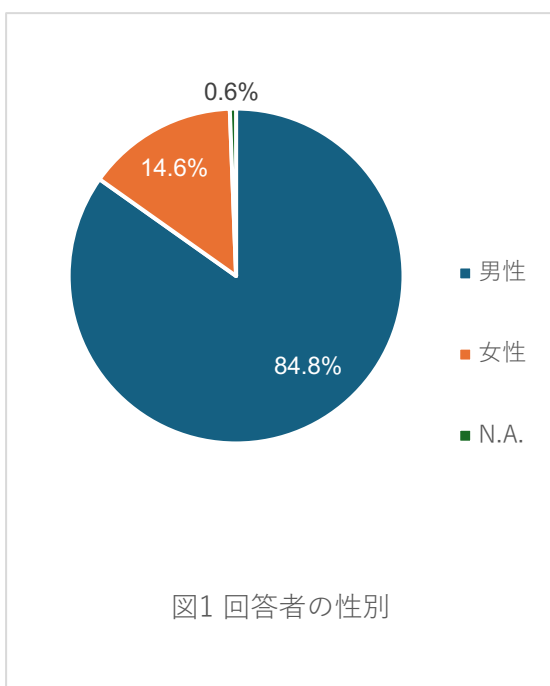
本報告書についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

国立大学法人鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系  
教授 北村尚浩

TEL & FAX : 0994-46-4968 Email : kitamura@nifs-k.ac.jp

## 2. 回答者の属性

性別では、男性が 605 人 (84.8%)、女性が 104 人 (14.6%) で、年代別では、50 歳代が 27.8% で最も多く、次いで 40 歳代 (27.3%)、60 歳代 (17.8%) の順で、平均年齢は  $50.8 \pm 13.2$  歳である (図 2)。

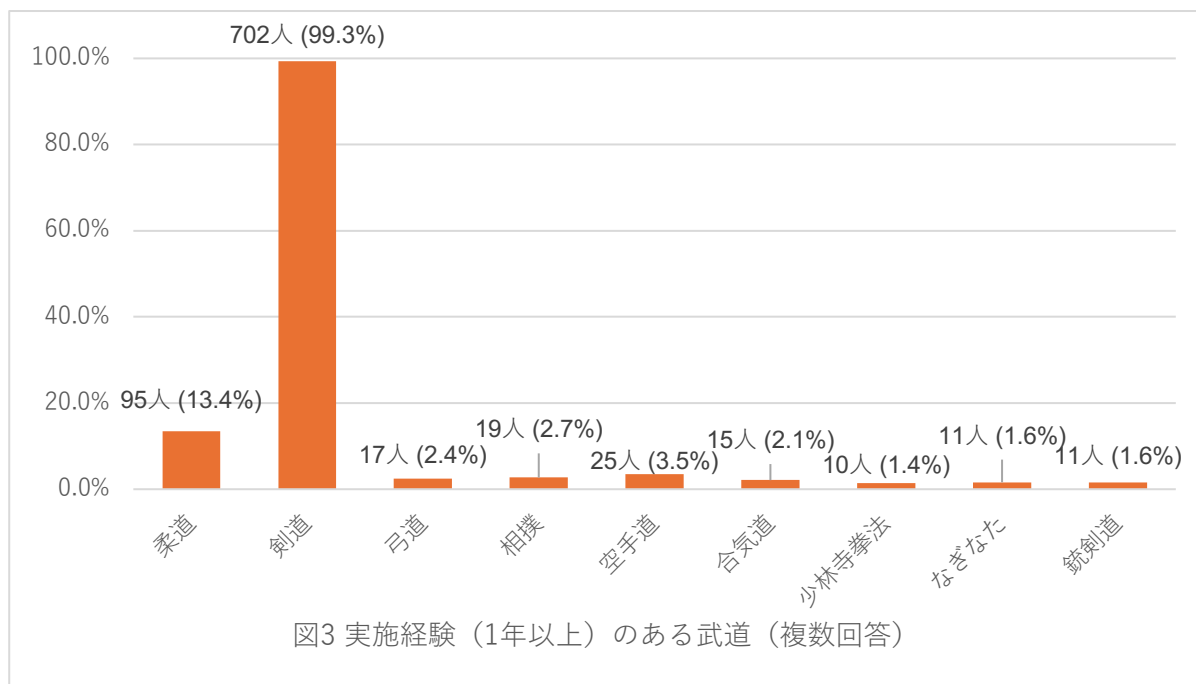


## II. 結果

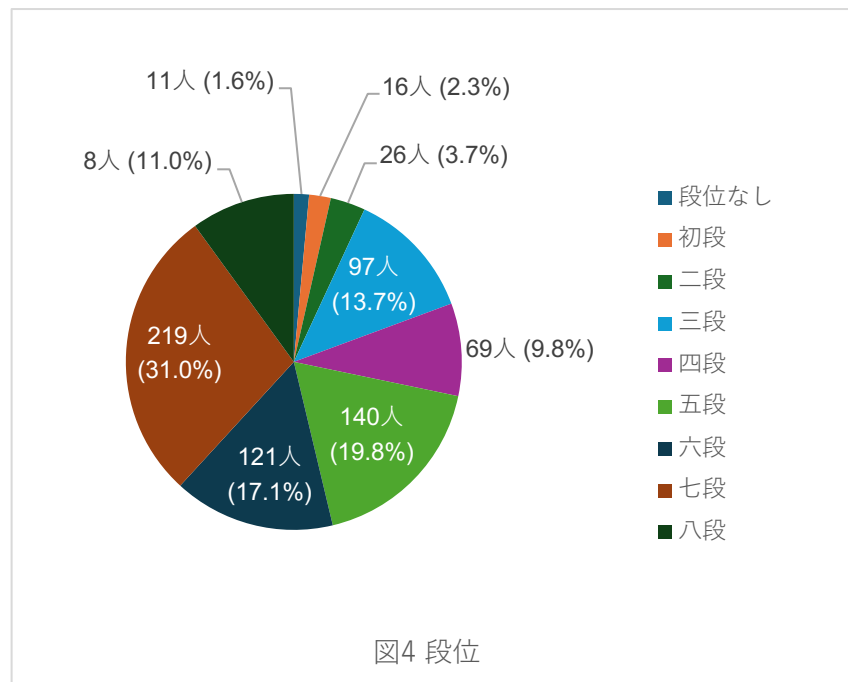
### 1. 武道実施状況

#### 1) 活動状況

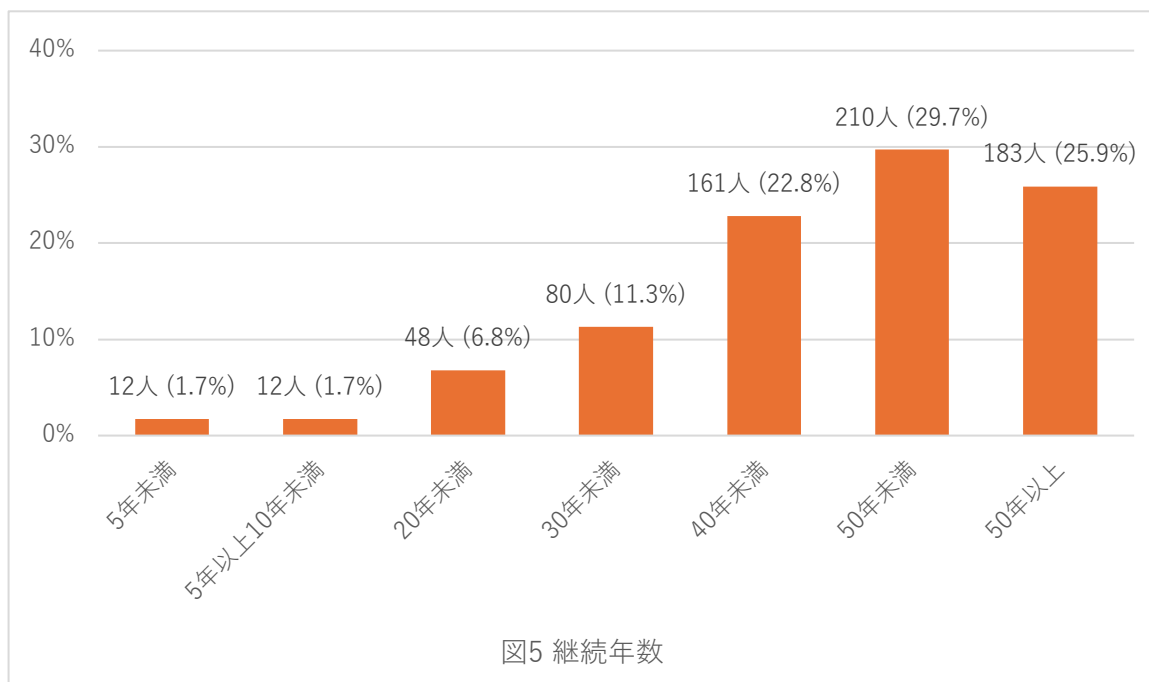
現在最もよく行っている武道は、ほぼ全員が剣道（98.7%）と回答した。1年以上の実施経験がある種目（複数回答）についても、剣道が最も多く（99.3%）、次いで柔道（13.4%）、空手道（3.5%）の順であった。



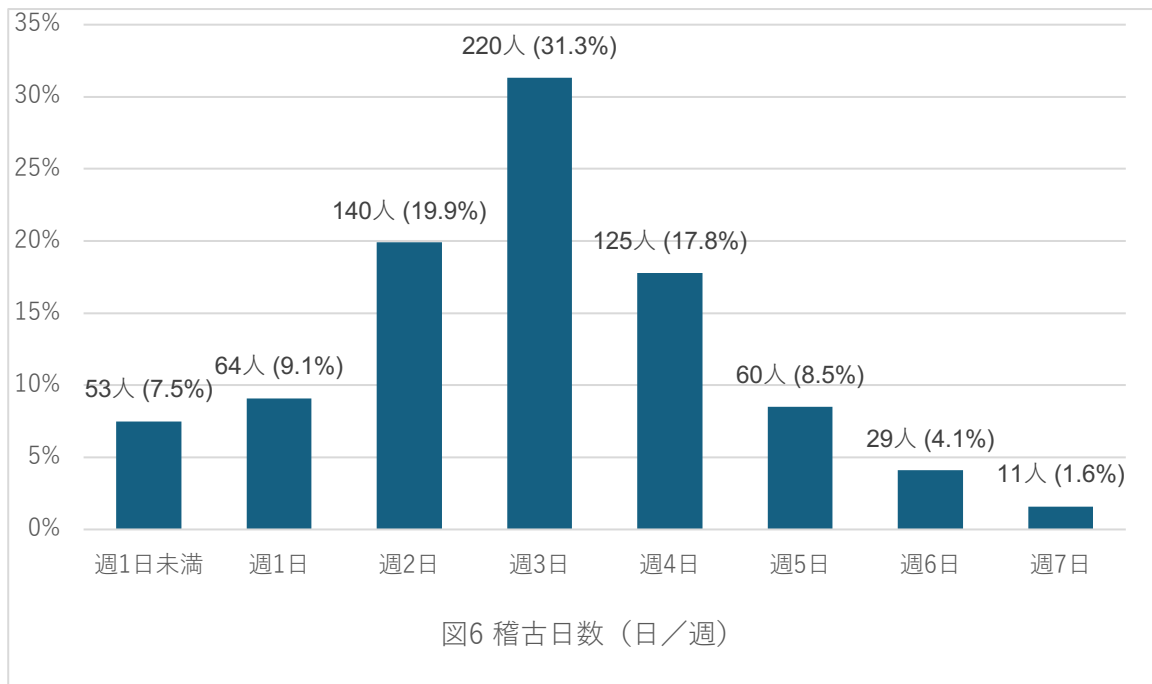
剣道の段位については、七段が最も多く（31.0%）、次いで五段（19.8%）、六段（17.1%）の順であった（図4）。武道を始めた年齢は、平均 11.4 歳（ $SD=9.1$ ）であり、6 歳（16.7%）および 7 歳（14.4%）での開始が多かった。



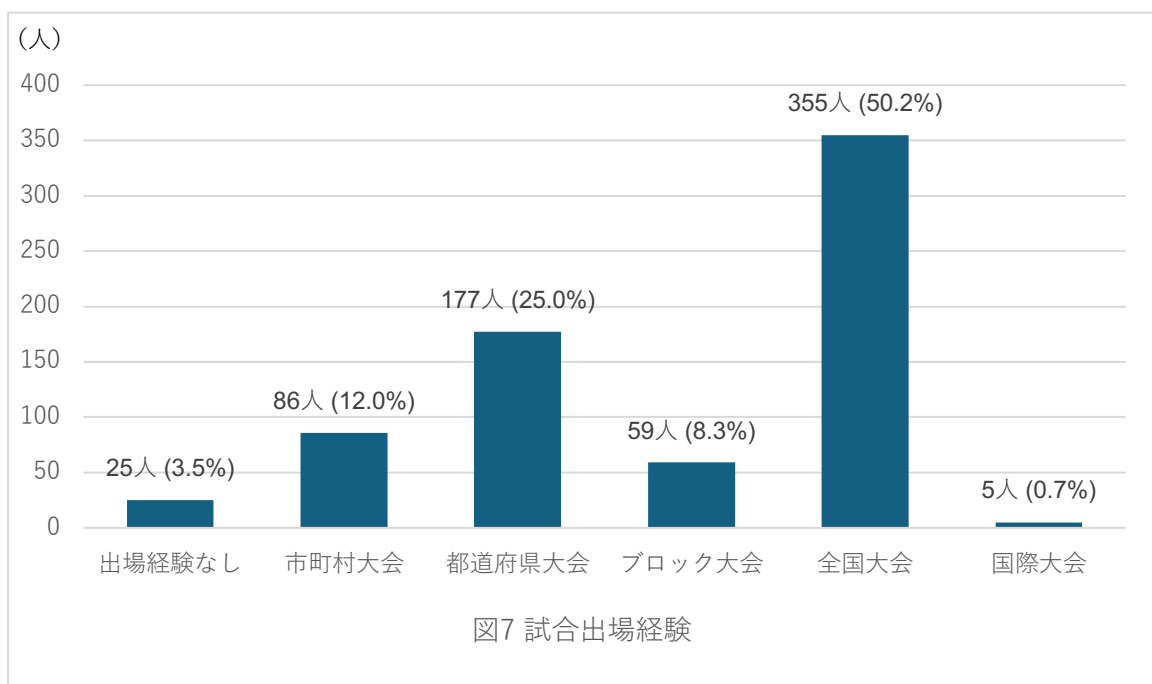
現在の年齢から開始年齢を引いて求めた継続年数は、40年以上50年未満が210人（29.7%）で最も多く、次いで30年以上40年未満が161人（22.8%）、50年以上60年未満が147人（20.8%）の順で、平均継続年数は39.5±14.2年である（図5）。



稽古への参加頻度は、週3日が最も多く（31.3%）、次いで週2日（19.9%）、週4日（17.8%）であった（図6）。1回の稽古時間は、90分（30.9%）が最も多く、次いで120分（30.2%）、60分（21.7%）の順であり、平均は93.8±35.6分であった。



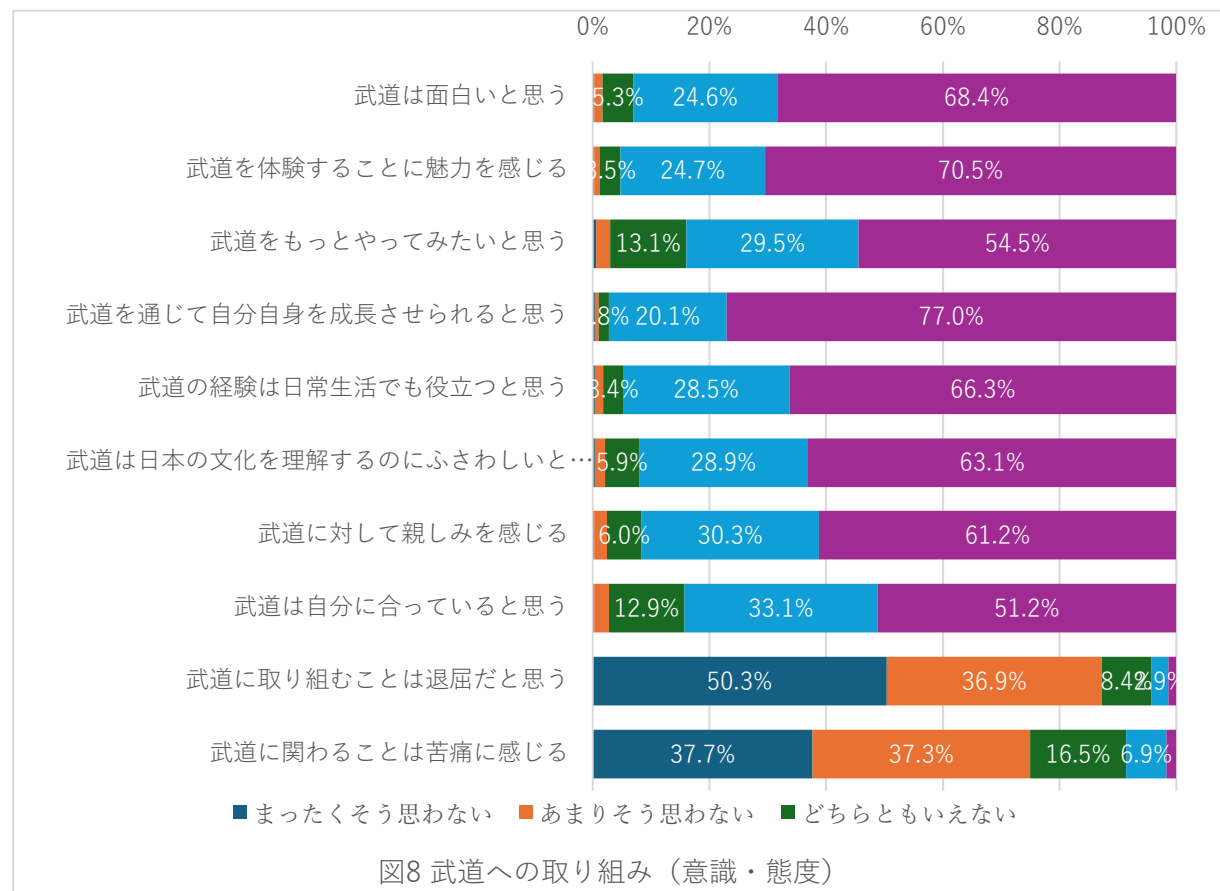
これまでに出場した最も大きな大会レベルは、全国大会が半数 (50.2%) を占め、次いで都道府県大会 (25.0%)、市町村大会 (12.2%) の順であった (図7)。



## 2) 武道への取り組み (意識・態度)

武道に対する意識について、「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計割合を見ると、「武道を通じて自分自身を成長させられると思う」(97.1%) が最も高く、次いで「武道の経験は日常生活でも役立つと思う」(94.8%)、「武道は日本の文化を理解するのにふさわしいと思う」(92.0%)、「武道をもっとやってみたいと

思う」(84.0%)において、肯定的な回答が8割を超えた。一方で、否定的な項目である「退屈だと思う」および「苦痛を感じる」に対しては、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と否定する回答がそれぞれ87.2%、75.0%を占めた(図8)。



### 3) 武道による自身への効果について

武道(剣道)の実践を通して自身が得られた効果について自由記述を求め、KH Coderを用いた質的分析を行った。得られた回答に含まれる語と語との関係を示す共起ネットワークを作成したところ、以下の10のサブグラフが抽出された(図9、表2)。

#### ① サブグラフ1: 対人理解・内面的省察

「心」「相手」「気持ち」「考える」「理解」「思いやる」「敬う」などの語で構成される。これらは、他者の立場や感情を理解しながら関係を築く姿勢を示す語群であり、剣道経験を通して形成される他者理解や内省的態度といった内面的成長を表すカテゴリーと解釈できる。

#### ② サブグラフ2: 教育的関係と社会的交流

「指導」「子ども」「仲間」「交流」「広がる」などの語がまとまりを形成している。この語群は、剣道が指導や世代間交流を通して人間関係を拡張する機会となるこ



「自信」「人生」「繋がり」「持てる」などの語が中心となっている。剣道経験を通して得られる自己肯定感や人生観の形成を示す語群であり、自己効力感の向上および人生的意味づけに関するカテゴリーと解釈できる。

⑦ サブグラフ 7：態度・立ち居振る舞い

「姿勢」「良い」「礼節」などの語がまとまりを形成している。これらは身体の構えや行動様式に関する語であり、剣道の稽古を通して形成される態度や立ち居振る舞いの改善を示すカテゴリーと解釈される。

⑧ サブグラフ 8：身体的能力と自己意識

「身体」「能力」「コミュニケーション」「意識」などの語で構成される。剣道の実践が身体能力の向上だけでなく、身体への意識や対人コミュニケーションにも関係していることを示しており、身体的能力と自己認識の向上を表すカテゴリーと解釈できる。

⑨ サブグラフ 9：人間形成と成長

「人間」「成長」「形成」「関係」「構築」などの語が結びついている。この語群は剣道が人格形成や人間的成長に関わるという認識を示しており、人間形成的価値を表すカテゴリーと解釈できる。

⑩ サブグラフ 10：心身の鍛錬と向上志向

「精神」「向上」「体力」「維持」「健康」などの語が中心となっている。これらは心身の鍛錬や自己向上を示す語であり、剣道を通じて形成される精神的強さや身体的鍛錬を表すカテゴリーと解釈される。

表 2 サブグラフの解釈と回答例（自身への効果）

サブグラフ名	回答例
対人理解・内面的省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的なものを含め、人との距離感や相手のことを考える力がついた。(37年, 6段)</li> <li>・人の気持ちを理解できるようになった(37年, 7段)</li> </ul>
教育的関係と社会的交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、少年剣道に携わっていますが自身での剣道と、人(子供達)へ伝える剣道で思い、行動、考えが変わった(47年, 7段)</li> <li>・心身共に自分自身を磨き、幅広い年齢層の人々と交流を深めることができた。(60年, 7段)</li> </ul>
武道的規範意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我慢強さ、忍耐力(39年, 5段)</li> <li>・礼儀作法を身に付けた(25年, 5段)</li> </ul>
倫理的価値観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝することの大切さ、思いやりを持つことなど、相手、周囲の人の気持ちを考えた行動を取れるようになった。(42年, 7段)</li> <li>・相手を思いやる気持ちを学べた(44年, 6段)</li> </ul>
日常生活への波及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活での理や武道と同じ考えで事を進める事で、仕事面でも信頼と実績を積むことができることを実感している。また、形がある事で、自分自身の身体認知力の把握ができる。自己と向き合い、自分自身をコントロールする気持ちが強くなった。その結果、武道だけでなく、職場での人間関係の構築や、対処法に幅が生まれ、仕事がしやすくなったと実感している。(25年, 3段)</li> <li>・社会人になってからもある程度のことは我慢がきき、耐えられるようになった(36年, 5段)</li> </ul>
自己効力感と人生観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信を持てた。健康な体になった。社会性が身に付いた。体系維持に役立っている。人生が豊かになった。(42年, 7段)</li> <li>・自分に自信が出てきた。(55年, 7段)</li> </ul>

表2 サブグラフの解釈と回答例（自身への効果）（続き）

サブグラフ名	回答例
態度・立ち居振る舞い	・正しい姿勢や礼儀作法が得られた。(50年, 5段) ・姿勢が良くなった。ルールを普通に守ることができる(51年, 7段)
身体的能力と自己意識	・日常生活においても身体の使い方を意識するようになった。姿勢も良くなり、健康状態も改善されたと思う。(7年, 3段) ・身体能力の向上コミュニケーション能力の向上(48年, 4段)
人間形成と成長	・人間関係の構築, 体力的な向上, 精神的な向上(6年, 3段) ・人間としての成長, 性格の形成, 健康な身体づくり。(42年, 6段)
心身の鍛錬と向上志向	・精神力の向上逆境に強くなった(31年, 5段) ・体力向上 精神力向上(68年, 7段)

#### 4) 武道必修化による中学生への効果について

中学校における武道必修化によって、生徒たちにどのような効果が期待できるかについて自由記述を求め、KH Coderを用いた質的分析を行った。得られた回答に含まれる語と語との関係を示す共起ネットワークを作成したところ、以下の10のサブグラフが抽出された(図10, 表3)。

##### ① サブグラフ1: 学校体育における学習環境

「体育」「授業」「学校」「教える」「指導」「先生」「中学生」「スポーツ」「時間」などの語で構成される。これらは、剣道が学校教育カリキュラムの一環として実施されている文脈を示しており、教師の指導下で限られた時間内に行われる組織的な教育実践や学習環境としての側面を表すカテゴリーと解釈できる。

##### ② サブグラフ2: 他者への配慮と共感的態度

「心」「相手」「気持ち」「思いやる」「敬う」「挨拶」「感謝」などの語で構成される。これらは、対人相互作用における内面的な配慮や倫理観に関わる語群であり、他者を尊重し感謝する心の育成といった、道徳的・情緒的側面における向社会的態度の涵養を表すカテゴリーと解釈できる。

##### ③ サブグラフ3: 人間形成と社会的関係の構築

「社会」「関係」「人間」「形成」などの語で構成される。これらは、剣道を通じた人格陶冶と社会との関わりを示す抽象度の高い語群であり、対人関係の構築能力や、将来の社会生活を見据えた人間形成という武道教育の長期的意義を表すカテゴリーと解釈できる。

##### ④ サブグラフ4: 心身の自己規律と鍛錬

「向上」「忍耐」「集中」「体力」「能力」「姿勢」「身体」「習得」などの語で構成される。これらは、身体的修練と精神的自律の不可分な結びつきを示す語群であり、姿勢や身体操作の規律を通して培われる忍耐力や集中力といった、心身両面にわたる自己統制能力の向上を表すカテゴリーと解釈できる。

##### ⑤ サブグラフ5: 精神的成長と内省的思考

「精神」「考える」「力」「良い」「機会」などの語で構成される。これらは、実践を通じた思考プロセスや精神的変容に関わる語群であり、剣道が単なる身体運動

にとどまらず、自己を見つめ直し精神性を高める内省的な学習機会として機能していることを表すカテゴリーと解釈できる。

⑥ サブグラフ 6：礼儀作法の身体的習得

「礼儀」「作法」「礼法」「身」「学ぶ」「正しい」などの語で構成される。これらは、武道固有の行動様式や規範を示す語群であり、正しい所作を知識として理解するだけでなく、身体的に習得（身につける）する礼儀作法の教育的効果を表すカテゴリーと解釈できる。

⑦ サブグラフ 7：伝統文化としての理解と継承

「日本」「文化」「伝統」「理解」「触れる」「古来」などの語で構成される。これらは、歴史的背景を持つ自国文化への直接的接触を示す語群であり、古来より継承されてきた伝統文化としての剣道を理解し、その文化的価値を再認識する契機としての側面を表すカテゴリーと解釈できる。

⑧ サブグラフ 8：身体経験を通じた他者理解

「打つ」「痛み」「知る」「人」などの語で構成される。これらは、剣道特有の直接的な身体接触や感覚的経験に関わる語群であり、打突に伴う痛みの共有体験を通して他者の痛みを想像するという、身体性を介した倫理観の形成プロセスを表すカテゴリーと解釈できる。

⑨ サブグラフ 9：稽古における礼節の実践

「礼」「体験」「持つ」「興味」などの語で構成される。これらは、稽古という具体的な実践の場における学習者の態度や関心を示す語群であり、礼節を尊ぶ体

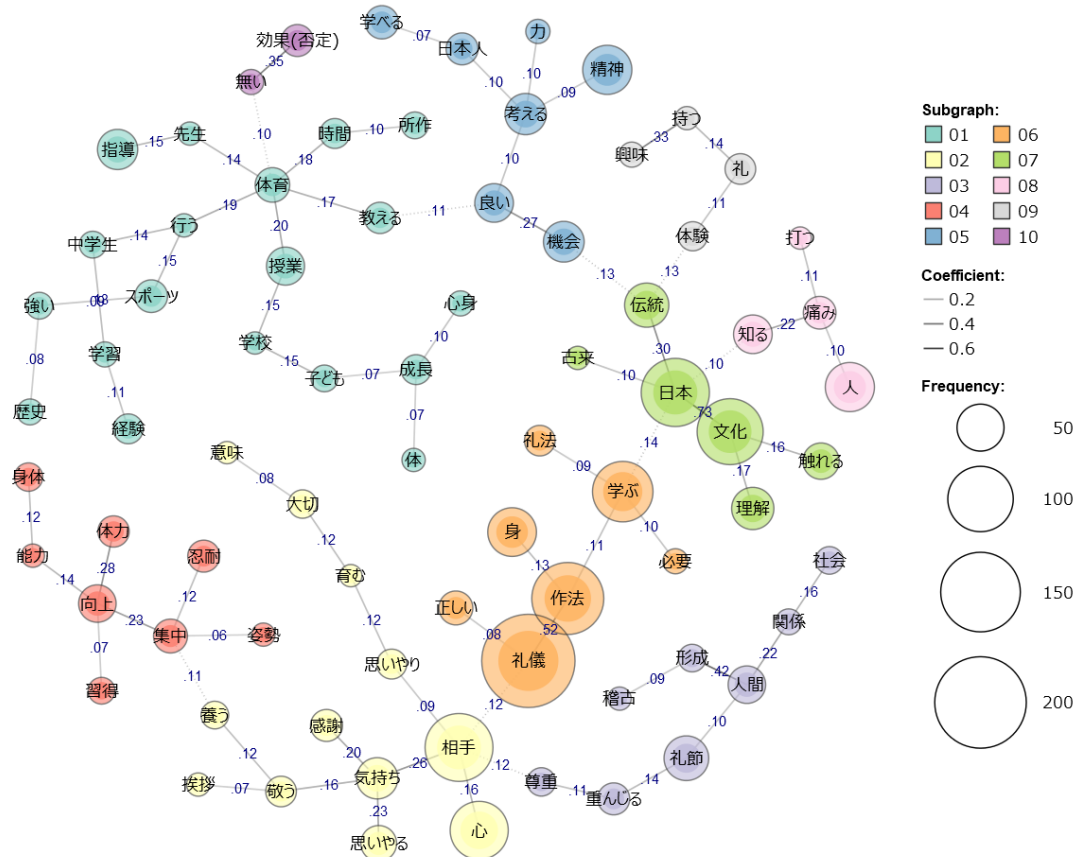


図 10 共起ネットワーク（武道必修化による効果）

験を通して武道への興味・関心が喚起される様子や、実践的な態度の変容を表すカテゴリーと解釈できる。

⑩ サブグラフ 10：教育的効果に対する限定的評価

「効果（否定）」「無い」で構成される。剣道授業の教育的成果に対して懐疑的または消極的な評価を示す語群であり、全ての生徒に一律な効果が見られるわけではないという課題や、学習者の個人差による受け止め方の相違を表すカテゴリーと解釈できる。

表 3 サブグラフの解釈と回答例（武道必修化による効果）

サブグラフ名	回答例
学校体育における学習機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業では、技術的な側面より武道の成り立ちや歴史を学ぶことで、単なる勝ち負けだけでなく、精神的な部分が今後の成長に役立つと思う。(38年, 3段)</li> <li>・たった数回の授業で効果が得られるかどうかは、授業者から武道の理念が中学生に伝わるような授業作りができるかどうかだと思う。(中略) そういった学習活動を通して、道徳心の向上(中略)といった効果が考えられる。(36年, 6段)</li> </ul>
他者への配慮と共感的態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやる気持ちや尊敬する気持ちを得ることができる点。礼儀作法を身に付けることができる点。精神力を鍛えられる点。(33年, 7段)</li> <li>・相手の気持ちを思いやる心や、礼節を学ぶ機会になってほしい。(42年, 7段)</li> </ul>
人間形成と社会的関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼節を通じて、人間関係、上下、同級生、後輩等の規律を学習してほしい。要望です。(51年, 7段)</li> <li>・正しい礼儀作法の修得により社会における人間関係を構築の一步になる(なってほしい)(64年, 4段)</li> </ul>
心身の自己規律と鍛錬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の歴史的な部分であったり、普段とは違う身体の使い方を学ぶことや集中力を養うことによって脳が刺激され学力向上へも期待できると思う。(30年, 5段)</li> <li>・集中力の向上と忍耐力、決断力の醸成。思いやりの心、感謝の心。(47年, 7段)</li> </ul>
精神的成長と内省的思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術面よりも武道の精神的な部分を伝えることによって中学生に新たな人に対する考え方や礼儀作法などの様々な新たな気づきを得てもらえると思う(41年, 3段)</li> <li>・相手の立場に立って考えるということを考える、日本の伝統的な作法を学ぶことができることで、日本人として必要な要素を学べると考える。(14年, 4段)</li> </ul>
礼儀作法の身体的習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本(礼法)を学ぶことによって自然と礼儀作法が身につく。思いやりや気配りが身につく。(57年, 7段)</li> <li>・礼法を学ぶことで、セルフコントロールの力が身につくと感じた(36年, 5段)</li> </ul>
伝統文化としての理解と継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道を通して日本の伝統文化に触れ礼節を学び、人を敬う心を養う、近年薄らいできている人間関係を学ぶ機会となればと思います。(53年, 8段)</li> <li>・日本の伝統文化にふれ、西洋化した現代でも、礼節、敬意、所作のすばらしさに気付くかもしれない(49年, 7段)</li> </ul>
身体経験と他者共感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道を通して、打たれる痛みを知る事により周りの人に優しく接する効果怖くても逃げずに立ち向かう効果があると思います(43年, 3段)</li> <li>・柔道や剣道は、相手に直接的にダメージ(投げる、押す、叩くなど)を与える。また、それを自分も受ける。(中略)相手の痛みを感覚として経験する事も大事なのではないかと思う。相手の気持ちや痛みを考えられるようになるのでは?(7年, 3段)</li> </ul>

表3 サブグラフの解釈と回答例（武道必修化による効果）（続き）

サブグラフ名	回答例
稽古における礼節の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼節を通して武道の文化を学び、武道に触れる事で武道に興味を持ち、学ぶきっかけとなるかを感じる（48年，7段）</li> <li>・礼や作法を重んじることにより、人を尊重することや、日常生活では得られない伝統文化に体験的に接することで、人としての成長や新しい世界に触れる事ができる（58年，7段）</li> </ul>
教育的効果に対する限定的評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の時間だけ武道をやったところで、得られるものはないと思う。特に、自ら望んで武道をやりたいと思っていないと、効果はないと思う（26年，4段）</li> <li>・あまり効果は無いと思う。授業としての武道は形だけでその中にある精神には触れないと思う。（46年，2段）</li> </ul>

## 2. 国民性（自分の国に対する意識）

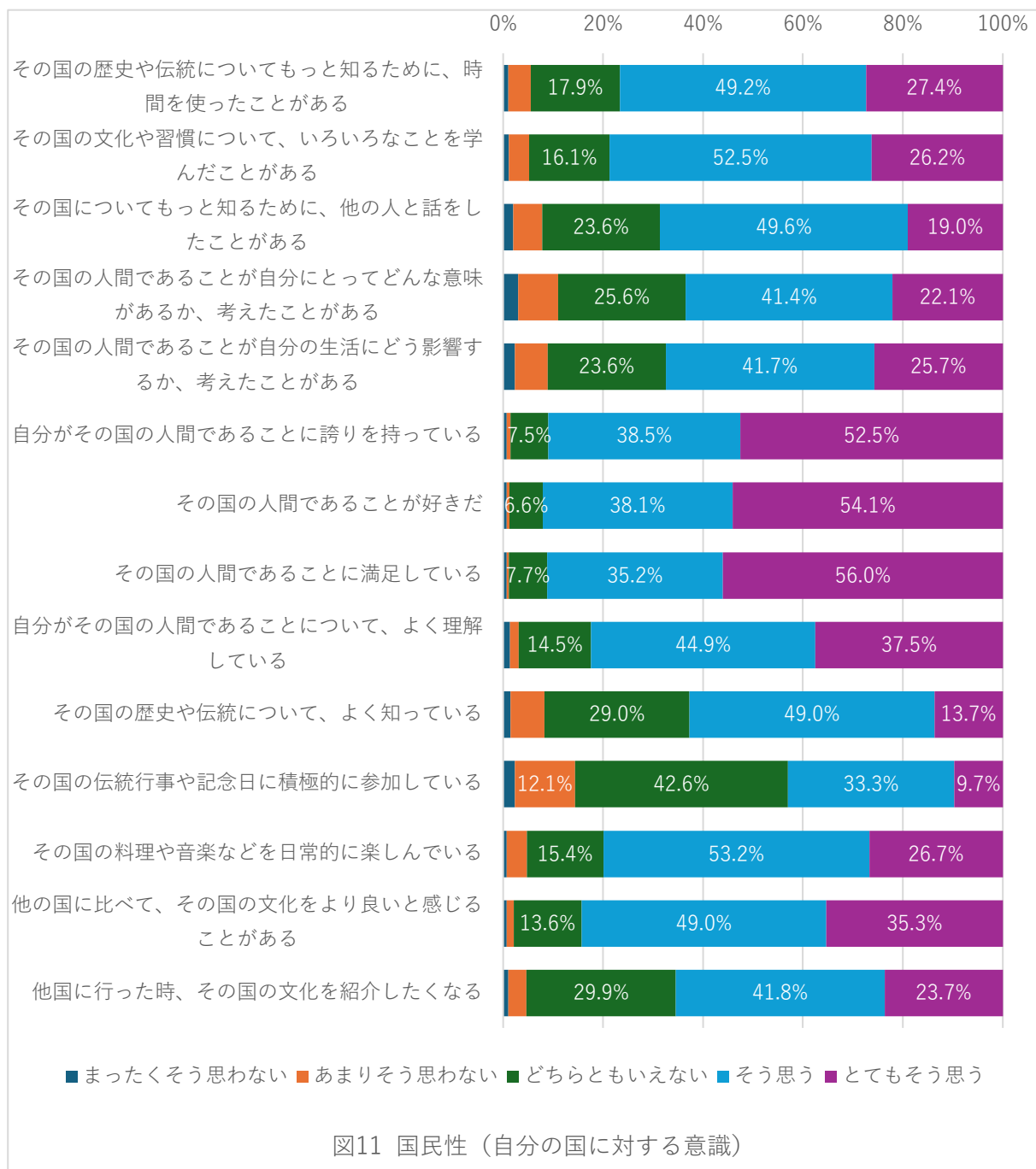
回答者の 99.9%が、自分の国として日本と回答していた。図 11 は、自国に対してどのような意識を持っているかを尋ねた結果である。全体的に「そう思う」および「とてもそう思う」を合わせた肯定的な回答が高い割合を占めている。

特筆すべきは、対象となる国への愛着や誇りを示す感情的な側面が極めて高い水準にある点である。「その国の人間であることに満足している」「その国の人間であることが好きだ」「自分がその国の人間であることに誇りを持っている」の 3 項目においては、いずれも肯定的な回答が 90%を超えており、中でも「とてもそう思う」単独で 50%以上（最高は「満足している」の 56.0%）を占めている。また、「他の国に比べて、その国の文化をより良いと感じることがある」（84.3%）や「自分がその国の人間であることについて、よく理解している」（82.4%）といった認識面でも強い肯定傾向が見られた。

さらに、文化への関心や日常的な行動に関する項目でも、「その国の料理や音楽などを日常的に楽しんでいる」（79.9%）、「その国の文化や習慣について、いろいろなことを学んだことがある」（78.7%）、「その国の歴史や伝統についてもっと知るために、時間を使ったことがある」（76.6%）と、およそ 8 割が肯定的な回答を示している。

一方で、具体的な社会参加や深い内省を伴う項目においては、相対的に肯定的な回答が減少する傾向が見られる。「その国の人間であることが自分にとってどんな意味があるか、考えたことがある」（63.5%）や「その国の歴史や伝統について、よく知っている」（62.7%）は 6 割台にとどまっている。とりわけ、「その国の伝統行事や記念日に積極的に参加している」という実践的な行動を問う項目に関しては、「そう思う」と「とてもそう思う」を合わせた肯定的な回答が 43.0%と全項目の中で最も低く、「どちらともいえない」が 42.6%、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた否定的な回答が 14.4%を占めるなど、消極的な姿勢が浮き彫りとなっている。

これらの回答傾向から全体の特徴を総括すると、調査対象者は自身がその国の人間であることに対して、極めて強い誇りや愛情、満足感を抱いており、内面的な帰属意識は非常に高い状態にあることが分かる。また、日常的に自国の文化を楽しみ、歴史や習慣を学ぶ意欲も持ち合わせている。しかしその一方で、そうした内面的な認識の高さが、必ずしも伝統行事への積極的な参加といった直接的・社会的な行動の実践に直結しているわけではない。総じて、対象者の自国に対する意識は、外部への積極的な行動としての表出よりも、精神的・感情的な誇りや日常的な満足感として強く内面化されている傾向があると言える。



### III. まとめ

本調査は、武道実践者を対象として、武道の教育効果が国民性に及ぼす影響を明らかにすることを目的として実施された。有効回答数 718 件の分析に基づき、得られた主要な知見を以下に総括する。

#### 1. 武道実践の現状と意識

- 調査対象者の平均年齢は 50.8 歳であり、平均継続年数は 39.5 年に及ぶ高段者が中心となっている。
- 回答者の 97.1% が「武道を通じて自分自身を成長させられる」と感じており、92.0% が「武道は日本の文化を理解するのにふさわしい」と肯定的に捉えている。

#### 2. 武道による多面的な教育効果

- 実践者が自身に得られた効果として、「対人理解・内面的省察」や「倫理的価値観」の向上が抽出された。
- 武道の経験は「日常生活への波及」として、職場での人間関係構築や社会生活における忍耐力といった転移的效果をもたらしている。
- 「自己効力感と人生観」の形成にも寄与しており、武道が人生を豊かにする基盤となっている様子が伺える。

#### 3. 中学校武道必修化への評価

- 中学生に対する効果として、「礼儀作法の身体的習得」や「伝統文化としての理解と継承」といった武道特有の教育的意義が期待されている。
- 直接的な打突を伴う身体経験を通じて、「他者の痛みを知る」という共感的態度の育成が重要視されている。
- 一方で、限られた授業時間や指導体制の課題から、教育的成果に対して懐疑的な「限定的評価」も一部に見られた。

#### 4. 国民性とアイデンティティ

- 回答者の自国に対する誇りや愛着は極めて高く、9 割以上が日本人であることに満足し、誇りを持っている。
- 日常的に自国の文化を楽しみ、歴史を学ぶ意欲は高いが、伝統行事への積極的な参加といった「実践的な行動」は 4 割台に留まっている。
- 対象者の国民性は、外部への積極的な行動よりも、内面的な精神的・感情的な誇りとして強く充足されている傾向がある。

総じて、武道の実践は個人の人格形成と強固なナショナル・アイデンティティの形成に深く関与している。今後は、武道が持つこれらの多面的な教育的価値を、学校教育等の公教育の場でいかに効果的に展開していくかが重要な課題となる。

#### IV. 今後の課題と提言

- 「意識」から「実践」への橋渡し 調査で明らかになった「高い帰属意識」と「社会的な伝統行事への参加」の乖離を埋めることが今後の課題である。武道教育を通じて培われた自国文化への誇りを、地域社会の活動や伝統の継承といった具体的な実践行動へと繋げていくための動機付けが求められる。
- 学校体育における指導体制の体系化 武道必修化の教育効果を確かなものにするためには、授業者（教員）が武道の理念や精神性を適切に伝えられる指導体制の構築が不可欠である。単なる技術の伝達に留まらず、武道の歴史的背景や道徳的価値を授業内でいかに体系化して提示できるかが、今後の公教育における武道発展の鍵となる。
- 身体性を介した倫理教育の推進 「打たれる痛みを知る」といった武道特有の身体的経験は、他者への共感や尊重の念を育む上で極めて有効な資源である。デジタル化が進む現代社会において、身体の直接的な触れ合いを通じた倫理観の形成プロセスを、武道教育の独自価値としてより積極的に発信・活用していくべきである。
- 生涯スポーツとしての武道コミュニティの拡充 武道は世代を超えた交流を可能にし、人格形成に寄与する生涯スポーツとしての側面を強く持っている。学校教育を入り口としつつ、卒業後も地域道場等を通じて継続的に武道に親しみ、人間形成を追求できる社会的環境を整備することが、健全な国民性の育成と継承に資すると考えられる。

## おわりに

本調査は、武道実践者が武道教育に対して抱く価値観や、それが国民性の形成にどのように寄与しているかを定量・定性の両面から明らかにすることを試みたものである。全日本剣道道場連盟様の多大なる協力により、全国の道場から得られた718件の貴重な回答は、現代日本における武道の教育的意義を再考する上で極めて重要な示唆を含んでいる。

調査結果から、武道は単なる身体運動ではなく、礼節の習得や他者理解、さらには自国文化への深い誇りを醸成する「道」としての役割を今なお果たし続けていることが確認された。一方で、内面化された高い自国意識をいかに具体的な社会参加や伝統行事への実践へと結びつけていくか、また学校教育の場において武道の本質的な教育力をいかに担保していくかという課題も浮き彫りとなった。

本調査の実施にあたり、多大なるご支援とご協力をいただいた全日本剣道道場連盟様に深く感謝の意を表します。加盟道場（ $N=2,295$ ）を母集団とした比例層化無作為抽出に基づく全国規模の調査が実現したのは、偏に同連盟様のご協力によるものです。また、多忙な中、所属会員への周知や調査への協力依頼にご尽力いただいた各道場の代表者の方々、ならびに貴重な回答を寄せてくださった会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

2026年3月20日

国立大学法人鹿屋体育大学

スポーツ人文・応用社会科学系

教授 北村尚浩

## V. 付録

自由記述回答一覧（自身への効果）（ ）内は、継続年数、段位

- ・立場を踏まえた人間関係，上下間の付き合いなど，周りをよく見て自分を磨くことが出来たと思う。（48年，5段）
- ・自身の感覚や感じたこと，学び，失敗といったことを伝えるコミュニティがあり，更なる成長が見込める（42年，7段）
- ・人間関係，人格形成（40年，7段）
- ・もともと人見知りであったが礼儀を学んだことや老若男女問わず話す機会が多いことでコミュニケーション能力が向上した（35年，7段）
- ・現在，少年剣道に携わっていますが自身での剣道と，人(子供達)へ伝える剣道で思い，行動，考えが変わった（47年，7段）
- ・礼儀（38年，6段）
- ・交剣知愛一期一会（37年，7段）
- ・礼儀作法（28年，5段）
- ・武道の精神性を考えることで日本人として振る舞いの美徳を考察するきっかけを得たように思う。（53年，6段）
- ・人としての成長(人間形成)（32年，7段）
- ・忍耐力（55年，7段）
- ・体力増強（65年，7段）
- ・こだわりが芽生えた（13年，2段）
- ・言葉は悪いですが，現代の子ども達は逃げる，避ける，本気で取り組んでいることに対して真向きに向き合おうとしない傾向があります。やはり昭和ほどの場面においても厳しさを求められ，逃げれない環境，その中で立ち向かっていく精神力，逃げない心を身につけていただきました。そして，何より，まず自分で考える力を養うことが剣道を通じて学ばせていただきました。（39年，7段）
- ・礼節，体力，忍耐，伝統文化を学ぶ誇り，自己肯定感，他者からの信用（49年，7段）
- ・他者とのつながりが豊かになった（41年，5段）
- ・人間関係の構築，体力的な向上，精神的な向上（6年，3段）
- ・礼儀作法．相手への痛み大人になると練習での体の使い方（36年，3段）
- ・子供への普及の必要性（59年，6段）
- ・礼儀作法（30年，3段）
- ・忍耐力およびコミュニケーション力が身につきました。（52年，7段）
- ・精神力の向上逆境に強くなった（31年，5段）
- ・自分自身を律していけないと，稽古も指導もできないと，意識するようになりました。（51年，6段）
- ・日常生活での理や武道と同じ考えで事を進める事で，仕事面でも信頼と実績を積むことができることを実感している。また，形がある事で，自分自身の身体認知力の把握ができる。自己と向き合い，自分自身をコントロールする気持ちが強くなった。その結果，武道だけでなく，職場での人間関係の構築や，対処法に幅が生まれ，仕事がしやすくなったと実感している。（25年，3段）
- ・様々な国籍，年齢層及び性別の方々との交流で得るコミュニケーション力．相手がどう考えて行動に移すかなどを先に予測し行動に移す察知力を高めることができる。（30年，7段）
- ・忍耐強くなった（32年，5段）
- ・人と人のつながりが増え自身の心身の成長が促された（12年，5段）
- ・人間としての成長，性格の形成，健康な身体づくり。（42年，6段）
- ・心理的なものを含め，人との距離感や相手のことを考える力がついた。（37年，6段）
- ・剣道を通して心身ともに鍛えることができました。（36年，6段）
- ・運動習慣ができた．汗をかけるようになった(健康面でプラスになった)（22年，4段）
- ・忍耐力（45年，7段）
- ・礼儀はもちろんのことだが，忍耐力，協調性等が身についた（42年，5段）
- ・（無回答）
- ・人間形成（61年，7段）
- ・他者との関わり問題解決力（33年，7段）
- ・人間形成の習得（50年，7段）
- ・毎日の生活に気づきを与えてくれる．失敗もあるが成長を促す。（59年，6段）
- ・精神的強くなる。（44年，3段）

- ・物事の前後関係を考えるようになった。他者のことを考えるようになった（40年，7段）
- ・心と身体を鍛えることができ、またいつまでも修行が続くため更に鍛えることができる。（57年，8段）
- ・常に相手がいる事。対人関係の修得。（55年，6段）
- ・これまでの人生の機微にまた節目に役立ったと思っている（63年，7段）
- ・困難なことが生じたときに逃げずに立ち向かうこと、基本をもとに創意工夫すること、人の気持ちに想いを馳せられること（合気）などが得られた。（34年，5段）
- ・道理というものの意味を知った（46年，7段）
- ・自分の中で目標をもって取り組むことができ、失敗したり試合で負けた時はなぜそうになったか分析するように心がけるヨウニなった。（15年，5段）
- ・人に対して思いやりを持って接する事ができる人間であるとは思っています。（44年，5段）
- ・剣道は人間形成の道というだけあり、迷った時など剣道の教えを振り返る事で、進むべき道が見えてくる。理合があり、コミュニケーションにも役立つ。（8年，3段）
- ・感謝することの大切さ、思いやりを持つことなど、相手、周囲の人の気持ちを考えた行動を取れるように努めるようになった。（42年，7段）
- ・忍耐力、達成感を得られた。（44年，3段）
- ・生活の活力（44年，6段）
- ・生きることへのモチベーションと障害を乗り越える精神力の向上（2年，3段）
- ・我慢強くなった（71年，7段）
- ・生き方、考え方が人として正しい方向に向かわせていただいている事。但し、自身が出来ているわけでは無い。（55年，4段）
- ・教え子が礼節等うるさく言われたがあの時の教えが今に生きていと言われた時自分自身自信が出てやっけて良かったと思いました（61年，5段）
- ・人間力が高まる（37年，6段）
- ・常日頃平常心をこころがける。謙虚でありたいと思う。（55年，7段）
- ・自信を持てた。健康な体になった。社会性が身に付いた。体系維持に役立っている。人生が豊かになった。（42年，7段）
- ・我慢強さ、忍耐力（39年，5段）
- ・①稽古・試合での鍛錬による心身の健康増進、②人に優しく敬意をもって接する姿勢の向上、③先生・剣友と知己を得て人間関係の幅が拡充、④人生における楽しみの増加、等々（48年，6段）
- ・30年間のブランクがありましたが、武道は年齢を経てもその年齢なりの成長ができる生涯スポーツであり、武道を通じて交友関係も広がり生きがいを感じれている（50年，3段）
- ・ストレス解消、自分を見直せる。（46年，4段）
- ・人間性が鍛えられる（20年，4段）
- ・武道を通して、人間的成長ガアツタ。（11年，3段）
- ・集中力、体力向上、健康の維持、仲間意識、礼儀作法等（56年，7段）
- ・日常生活でも、我慢強さや集中力が高まったと感じます。社会性面でも仲間との協力、後輩指導の経験、相手を尊重する心、人とのつながりを得られたと思います。（11年，3段）
- ・体力向上（32年，3段）
- ・肉体と精神の鍛錬（37年，4段）
- ・相手を思いやる気持ちを学べた（44年，6段）
- ・人生そのものであり、社会生活を営む上で大きな基礎となっている（51年，6段）
- ・思いやりの心（53年，7段）
- ・武道を通して人として成長できたこと（13年，3段）
- ・心の修養が仕事においても活かせること。（46年，7段）
- ・潔くなれたと思う（51年，5段）
- ・礼儀作法、心身の鍛錬により人間形成の道（53年，6段）
- ・団結力（60年，4段）
- ・人間形成の意欲が持続している。（58年，7段）
- ・相手を尊重する態度周囲の状況把握（57年，8段）
- ・幅広い人間関係の構築忍耐力、集中力、体力の維持（53年，8段）
- ・心身共に自分自身を磨き、幅広い年齢層の人々と交流を深めることができた。（60年，7段）
- ・指導する為の理論的な学習を深めた事と、稽古を継続する健康な身体を維持する効果が得られた事。（59年，7段）
- ・何事にも、辛抱強く取り組む事ができるようになったし、人間としての幅が、出来たように思います。（54年，5段）
- ・心身共にたくましくなり、努力を積み重ねる重要性を痛感した。（31年，6段）
- ・正しい礼法が身についた（28年，6段）
- ・礼儀作法を身に付けた（25年，5段）

- ・心身の成長（28年，6段）
- ・体が強くなる（26年，5段）
- ・色々な人との交わり（46年，7段）
- ・生活に張りができた夢中になれるものがある体力がついたいろいろな人との関わりができて視野が広がった（33年，6段）
- ・身体が丈夫になった．幼少年指導を行うことにより充実した生活を送れる．剣道団体役員・指導者として多くの人と知り合えた（59年，7段）
- ・自分に自信が出てきた．（55年，7段）
- ・（無回答）
- ・丈夫な身体になった（36年，7段）
- ・剣道は礼法を重視していますので，日常生活において人との挨拶がしっかり出来るようになったと思います．（45年，7段）
- ・礼儀正しさ（40年，6段）
- ・我慢強くなり，人に優しく大きな気持ちになれた．（44年，4段）
- ・我慢強い心人を思いやる気持ち集中力（54年，3段）
- ・今の私を作った（33年，7段）
- ・生活の一部であり，生活での辛い事などにも踏ん張れる精神を鍛えられている．（44年，4段）
- ・剣道を学ぶ事によって心や体を磨き，鍛えて剣道を通じて節度を弁え・礼儀を身につけます（55年，5段）
- ・精神力（35年，4段）
- ・礼儀が身についた（11年，3段）
- ・自主性が生まれた．（54年，7段）
- ・正しい姿勢や礼儀作法が得られた．（50年，5段）
- ・日々の生活に活気がみられ，コミュニケーション力向上のきっかけになっています．（52年，7段）
- ・人間性が成長できた（20年，5段）
- ・体育学科での経験社会的に理不尽なことでも乗り越える忍耐力（31年，6段）
- ・我慢（48年，5段）
- ・気力，体力，集中力，忍耐力（46年，5段）
- ・我慢（55年，7段）
- ・礼儀，精神力，体力，筋力，瞬発力，指導力，地域に対する感謝，家族に対する感謝，仲間への感謝（39年，5段）
- ・礼儀体力向上人脈（50年，7段）
- ・相手を尊重すること．（37年，7段）
- ・常に相手を敬う．（52年，7段）
- ・色々な方と交流を深め，剣道を通して人生が豊かになった．（不明年，6段）
- ・（無回答）
- ・稽古を通じて健康はもとより，心が洗われるまた，人との交流で楽しい生活を送れる（46年，不明段）
- ・礼儀，所作が出来た様になり，物事に対する視野が広がったと思う（43年，3段）
- ・剣道界での数々の教えが人間的な成長につながったと思います．年齢を重ねるにつれて感謝の心の大切さを痛感しています．（42年，7段）
- ・自分がやらなければならない事柄に，積極的に向かえるようになった．（47年，7段）
- ・人間形成（54年，7段）
- ・健康と考え方，相手に対しての対応，心配り（59年，5段）
- ・日本の文化に興味もてる．礼儀を学べる（41年，6段）
- ・精神的に強くなったと思う．姿勢がいいとよく言われる．（39年，5段）
- ・集中（55年，7段）
- ・自分自身，精神面も身体面も成長したと思います．また，子供達に指導することを通して自分の勉強にもなり，人の気持ちを理解し，思いやる事が出来るようになったと思います．（39年，5段）
- ・考え方が柔軟になった．（63年，7段）
- ・人の気持ちを理解できるようになった（37年，7段）
- ・敗者に対して敬う気持ちから勝者としての在り方，振る舞い方があるという点は，近代競技では決して到達出来ない点だと思います．その感性が日本人独自の奥ゆかしさの原点でもあると思います．そういう他者に対する共感を感じられる効果があると思います．（42年，5段）
- ・精神が鍛えられた．我慢強くなった．どんな困難なことにも逃げる事が無い精神力が鍛えられた．正しく生きる事の大切さを教えられた．（27年，6段）
- ・忍耐力，精神力が向上した．（43年，6段）
- ・対人関係の距離感をつかめる効果（41年，6段）
- ・技法だけではなく，礼儀作法はもちろんのこと心身の柔軟性や集中力，何かにチャレンジしてみようという気持ちやコミュニケーションスキルも向上していると思います．（12年，4段）

- ・ 礼儀作法の習得 (37年, 3段)
- ・ 広い年齢層での人脈の広がり (33年, 0段)
- ・ 忍耐力, 人とのつながり, 向上心 (46年, 7段)
- ・ 相手を尊重する心を養えた. (40年, 7段)
- ・ 体力, 筋力, 集中力, 持久力, 敏捷性の向上 (43年, 2段)
- ・ 上下関係, 礼儀, 忍耐力, 判断力, 対応力 (42年, 6段)
- ・ 目上の方を尊敬し, 礼儀を重んじることを学んだ (49年, 7段)
- ・ 人それぞれだということが分かった (27年, 5段)
- ・ 精神的な強さや礼儀作法 (40年, 5段)
- ・ 礼節を重んじる態度が身に付いた. また, なぜそれが必要なのかを知り, 考えることは, 生活を豊かにすると感じるができる. (34年, 1段)
- ・ 礼儀や作法を身につけることが出来た, また剣道で得た知識や経験は今でも役に立っている (19年, 4段)
- ・ 礼儀が身についた (33年, 7段)
- ・ 考える力, 洞察力あと, 耐える力仕事で行き詰まった時や迷ったとき, 剣道に置き換えて考えることが出来た. (57年, 7段)
- ・ 所作です. そしてら集中力や我慢強さ. (37年, 3段)
- ・ 人間的成長, 克己心, 礼節 (33年, 4段)
- ・ 身体的:姿勢, 筋肉などの能力が高まった精神的:仕事で苦しいことがあっても多少のことでは折れない. なんとか乗り切ろうという気持ちになれた. 思考:相手のして欲しいことや, 嫌なことなど, 気持ちや行動をある程度読めるようになった. (32年, 6段)
- ・ 人間的な成長ができています (33年, 5段)
- ・ 物事を継続する忍耐力, 相手を思いやる感謝の気持ち等武道を通して学んでいると感じる (48年, 7段)
- ・ 相手を思いやる気持ち, 尊重する気持ち, 礼節 (32年, 7段)
- ・ 少年期では礼節, 社交性, 忍耐力を, 成年になっては, 地域との関わりや人間形成 (59年, 4段)
- ・ 心の強さ (12年, 3段)
- ・ 礼儀, 姿勢, 忍耐力などが身についた. (51年, 7段)
- ・ 精神力・思いやりの心の成長 (14年, 2段)
- ・ 継続は力なり (63年, 7段)
- ・ 礼儀作法. コミュニケーション能力. (35年, 6段)
- ・ 精神力, 忍耐力の取得 (52年, 7段)
- ・ 人間的成長 (22年, 5段)
- ・ 礼儀を常に意識するようになった初対面でも知っている人でも相手を敬う気持ちをもって接するよう心がけている (35年, 4段)
- ・ 1人でやり切る(上の段位や大会等での上位入賞などを旨す) 力や考え方が身につく実践しようと思えるようになった. また, 指導している剣士達の技術など(特に基礎・基本)の向上を目指した指導ができるように稽古や勉学に励む. (57年, 7段)
- ・ 相手を思いやる心, 視野の広がり, 準備の大切さ, 継続の大切さ等 (41年, 7段)
- ・ 健康に対する意識. 体力向上. 自制心. (47年, 5段)
- ・ 社会人になってからもある程度のことは我慢がきき, 耐えられるようになった (36年, 5段)
- ・ 心, 身体で健康で日常生活が出来ます. (63年, 7段)
- ・ 何事にも前向きに (54年, 5段)
- ・ 人生観, 人格形成の基になった. (37年, 7段)
- ・ 剣道を通じて, 色んな人のお付き合いができた事です. (60年, 7段)
- ・ 忍耐力, 礼儀作法など人として大切な能力が身についた. (9年, 3段)
- ・ 続ける事によって武道の良さが徐々にわかっていくとおもう (43年, 7段)
- ・ 礼儀, 精神性, 上下関連(先輩後輩), 体力増 (55年, 7段)
- ・ 姿勢が良くなった. ルールを普通に守ることができる (51年, 7段)
- ・ 忍耐がつく (44年, 6段)
- ・ 心身ともに, 忍耐力が強くなった. 声を大きく出せるようになった. (48年, 3段)
- ・ 礼儀正しさ, 忍耐力, 集中力, 相手への敬意や思いやりを育んだと思います. また運動不足解消になっていると思う (59年, 6段)
- ・ 心身の健康 (50年, 7段)
- ・ 礼儀作法の習得 (23年, 4段)
- ・ 人間関係が広がった. 健康効果. (42年, 6段)
- ・ 子どもたちの成長を共感できる. 人間力の成長 (47年, 2段)
- ・ 忍耐力がついた (31年, 4段)
- ・ 上下の関係ができた. (65年, 4段)
- ・ 常に人間形成に繋がる事を意識出来る. (42年, 4段)
- ・ 人としての基礎基本が身についたと思います. (50年, 6段)

- ・ 忍耐力，精神力の向上運動能力，体力の維持（49年，5段）
- ・ 集中力や忍耐力が付いた（43年，8段）
- ・ 気力体力の養成（54年，6段）
- ・ 仕事場の人間関係や仕事など，周りに目配り気配りなど，改めて気付く事など有る．残心などを心がける事で大変役立っています．（19年，4段）
- ・ 礼儀，敬意，感謝，我慢強さ，集中力（47年，3段）
- ・ 心身の健康（42年，7段）
- ・ 体力，気力の向上．礼法等．（30年，5段）
- ・ 人間形成，人的交流（61年，7段）
- ・ 人に対する礼儀が身についたり，辛抱強くなったりした（34年，2段）
- ・ 礼法（39年，4段）
- ・ 平常心と忍耐力（56年，5段）
- ・ 自分自身の生き方を見つめ直す機会を与えてもらった．（61年，7段）
- ・ 臨機応変な判断力と平常心の会得（47年，7段）
- ・ 健康維持忍耐強さ自信（48年，7段）
- ・ 普段の生活(仕事，家庭生活など)から得られないものの見方を学びました．（24年，3段）
- ・ 忍耐力（41年，7段）
- ・ これまでの偉人の言葉や剣道の理念を覚え，実践をしていくことで自分自身の可能性に気づき，自己の成長につながるものがあつたように感じる．（34年，5段）
- ・ 稽古することによって自分自身の精神的成長につながる（40年，6段）
- ・ 人間形成や健康維持等，学んだこと全てが活かされていると感じる（43年，7段）
- ・ 忍耐力があつた．他者を重んじられる．（2年，2段）
- ・ 人脈形成，困難に立ち向かえる気力（42年，7段）
- ・ 剣道で挨拶や礼儀，勝つことの喜び，団結力を学べられていると思う．（25年，3段）
- ・ 礼儀作法が深く理解できた（23年，5段）
- ・ 人間関係（48年，6段）
- ・ 礼儀，忍耐力，集中力，（60年，5段）
- ・ 生きていく上での生きがいを持てた（52年，7段）
- ・ （無回答）
- ・ 忍耐強さ，礼儀正しさ，挨拶の大切さなど人間力が養われた（34年，3段）
- ・ 心身ともに成長した．（54年，8段）
- ・ 自己規律と人生と目標（1年，1段）
- ・ （無回答）
- ・ 礼儀作法が身についた（14年，3段）
- ・ 生活面を整えることや，目配り気配り心配りといった力を養うことが剣道の上達につながることから，剣道の実践を通して人間として成長できていることを感じる．（20年，3段）
- ・ 精神力，体力の向上（56年，7段）
- ・ 困難な時にも簡単に挫けない気持ちが持てた．（52年，6段）
- ・ 自分の実力がわかる．（45年，4段）
- ・ 礼儀，団結力，判断力，精神力，体力が身についた．（29年，4段）
- ・ 年齢関係なくチャレンジできる（34年，3段）
- ・ 挨拶（35年，1段）
- ・ 先を読む力があつた（38年，6段）
- ・ 忍耐力，持久力等体力の向上（50年，7段）
- ・ 大人でも自分のペースで継続すれば出来るようになることもあることを体感出来た．（24年，5段）
- ・ 目標達成，社会との繋がりが得られた．（28年，6段）
- ・ 姿勢が良くなった．世代を超えて仲間が増えた（33年，2段）
- ・ 忍耐力（41年，4段）
- ・ 沢山の方々と出会え，身体も鍛える事が出来て居る．また，剣道のお陰で現在の仕事への取り組みが容易になった．（30年，5段）
- ・ 日常生活においても身体の使い方を意識するようになった．姿勢も良くなり，健康状態も改善されたと思う．（7年，3段）
- ・ 忍耐力（47年，3段）
- ・ 中庸，バランス，陰陽等と言われる言葉に表されるもの『愛しすぎれば依存となり，憎しみを募らせれば恐れとなる』（46年，7段）
- ・ 人との繋がり，動じない心，礼儀，思いやり（30年，6段）
- ・ 集中力，忍耐力，根性など得られた（37年，4段）
- ・ 身体能力の向上コミュニケーション能力の向上（48年，4段）
- ・ 忍耐力相手の立場を理解する．体力（54年，6段）
- ・ 忍耐力，集中力，観察力，事前準備．相手を思いやる心，敬う心．（37年，6段）
- ・ 交剣知愛（41年，6段）

- ・ 剣道を通して、良縁に恵まれ、人生が豊かになったこと。また心身ともに健康で充実した日々が送れている。(33年, 7段)
- ・ 小さい頃の親との思い出, 作法や相手を思いやる気持ちが身についた(32年, 5段)
- ・ 心身の錬磨(43年, 5段)
- ・ 礼儀作法と姿勢(61年, 2段)
- ・ 礼法を学び次の世代へ繋いでいく重要な役割があると思います。(48年, 6段)
- ・ 私の周りの人達を尊敬して接することができるようになった。(55年, 4段)
- ・ 社会への適応力(41年, 7段)
- ・ 体脂肪が減り、周りから痩せたねって言われる様になりました。(6年, 1段)
- ・ 挨拶, 礼儀を考えられるようになった。性格が明るくなった, 自分以外のことを考えるようになった。(37年, 6段)
- ・ 世の中の視野がひろがる(5年, 3段)
- ・ 人と接する際の礼儀作法, 目的達成のための努プロセスと努力, 相手に対する感謝の気持ち, 理不尽に負けない強い心など(40年, 7段)
- ・ 成長(52年, 7段)
- ・ 人間性を磨くことができたと感じています(26年, 4段)
- ・ 忍耐力(42年, 7段)
- ・ 精神的に成長した。強く, おおらかに, 優しくなれたと思う。(53年, 7段)
- ・ 気遣いや気配りを意識するようになりました。(35年, 6段)
- ・ 精神的に強くなった(42年, 4段)
- ・ 仕事上, 理に適う思考と業務上の判断, 指示について効果があった。(57年, 7段)
- ・ 心身とも強くなった(50年, 6段)
- ・ 礼儀作法の習得(11年, 4段)
- ・ 礼儀作法(13年, 3段)
- ・ 古来武道を通じて, 人としての精神の持ちようが養われているように感じる。(51年, 7段)
- ・ 礼儀作法は身についた(43年, 3段)
- ・ やはり, 剣道は相手を竹刀で叩くと言う行為をする武道ですから, お互いの敬意がないといけないと思う。だから他人を尊重し, 自他を認め合う心を学んだと思う。身体における効果は自分の気 気分 気力 体力 筋力など様々な要因により作用するためその辺りを知ることが自分との対話になり, どうしたら良い効果があるのかを考えることが面白い。(35年, 5段)
- ・ 社会人としての組織の運営相手の思いや行動が感じ取れる, 気を感じ取れる事は組織運営に役立つ。(47年, 7段)
- ・ 忍耐力強化, 共通の仲間との繋がりそこから広がる仕事に通じる広がり(36年, 5段)
- ・ (無回答)
- ・ 1.剣道は老若男女が共にできる武道であり, 母校の先輩後輩など世代を越えた人間関係が構築できる。2.年齢を重ねるにつれ体力は落ちるものの, 剣道(武道)の奥深さを知ることにより, まだまだ成長できる。(30年, 6段)
- ・ 精神力と, 相手を思いやる気持ち(30年, 6段)
- ・ 対人関係が良くなったと思います。(54年, 7段)
- ・ 精神の安定, 発声を伴う全身運動による体力の向上, 人間関係の広がりや深まり, 正しい姿勢, 礼節を重んずる優しい心の習得(55年, 7段)
- ・ 物事の考え方の軸(45年, 6段)
- ・ 礼儀・姿勢が良くなり, 瞬発力がついた(53年, 7段)
- ・ 粘り強くなってきた。他者への配慮を大事にしている。(62年, 7段)
- ・ 忍耐強くなったのと友達がたくさんできたこと。(35年, 6段)
- ・ 健康管理に気を使えるようになった。(39年, 6段)
- ・ 厳しい稽古にも諦めず耐え続けること, 自分の限界に挑戦することによって, 自信がついたこと。さらに辛いことがあっても, 頑張っって耐えようとする強い心が育まれた。(13年, 3段)
- ・ 人間としての成長(47年, 5段)
- ・ 心身ともに強くなったと思います(43年, 7段)
- ・ 礼儀作法や頑張る, やり切る力がついた。(28年, 4段)
- ・ 痩せました!(1年, 0段)
- ・ 上下関係, 横の繋がり, 仲間との絆など人間関係の大切さを小さい時から身をもって感じられる。人の立場に立って考えられる。(46年, 1段)
- ・ 上下関係, 横の繋がり, 仲間との絆など人間関係の大切さを小さい時から身をもって感じられる。人の立場に立って考えられる。(46年, 1段)
- ・ 成長出来た(46年, 6段)
- ・ 心の強さ(47年, 0段)
- ・ 所作や礼法など, 技術以外のところで自分の生活に根付いている時思う(65年, 7段)

- ・ 人間形成 (39年, 7段)
- ・ 誰にでも挨拶をする (45年, 8段)
- ・ 人との繋がりが持てた礼儀作法が身についた (48年, 7段)
- ・ 対人関係において、認めて受け入れるということが以前より容易になった気がする。(38年, 3段)
- ・ やれば出来るとの自信醸成, 人生の基礎になっている。(61年, 7段)
- ・ 友達ができる。人との繋がりが増える。目上の方とも話ができる。(34年, 5段)
- ・ 年代に関係なく人との繋がりが出来たこと。(46年, 2段)
- ・ 何事も諦めないで、やりきろうとする力が、身についた (46年, 3段)
- ・ 相手を敬う気持ち (12年, 3段)
- ・ 友人関係, 社会人になるための準備など (45年, 7段)
- ・ 礼儀や作法などを学ぶことができ、人として成長する道標になっていると感じる (24年, 5段)
- ・ 体力, 気力の充実 (58年, 7段)
- ・ 生活の中で大変なことがあっても、武道の実戦で得た忍耐力を糧に対応できることが多い。(39年, 7段)
- ・ 相手のことを考えられるようになった (55年, 7段)
- ・ 心身の強化。体力の向上。礼節や伝統を尊重する心。(22年, 3段)
- ・ 人生の幅が広がった。(3年, 2段)
- ・ 人生をより楽しく健康で過ごせる (58年, 7段)
- ・ 芸は身を助けると言うように、色々な場面で武道の経験が、活かせる。(61年, 7段)
- ・ 胆力, 洞察力がついた (47年, 7段)
- ・ 体力向上 精神力向上 (68年, 7段)
- ・ 体と心の健康とバランスの維持 (48年, 3段)
- ・ 相手に対して向き合えるようになったと思います。それは礼儀であったり、日々の稽古の成果ではと思います。また、健康な状態でこの歳までこられました。(41年, 6段)
- ・ 強い精神力がついた (37年, 2段)
- ・ 人間形成 (50年, 7段)
- ・ 長く剣道をやっていると剣道界の悪い部分が良く見えてくる。(63年, 7段)
- ・ 楽しいことばかりでは無い一方、辛いことも多々ありました。社会に出て、理不尽な事を言われる機会も多く経験しましたが、古臭いかもしれませんが、グッとこらえる精神力と、これから良いことあるだろうといった楽観的な考えにシフトできるようなメンタルは得られたと思います。(34年, 3段)
- ・ 相手を敬う気持ちと辛抱強さが身についたと思う。(37年, 6段)
- ・ (無回答)
- ・ 人としての礼儀義理, 人情を味わえた (57年, 7段)
- ・ 人として大事な礼儀が身についたと思います。(27年, 4段)
- ・ 忍耐力 (56年, 6段)
- ・ 忍耐力, 人間力 (50年, 7段)
- ・ ・ 身体の使い方, 心身の調整に関する理解が深まった。・ 日本の文化, 伝統とその伝え方に関する理解が深まった。(48年, 7段)
- ・ 考える力, 判断力, 相手の気持ちを読み取ることなど (41年, 6段)
- ・ 精神力の充実, 日本人の礼儀作法の習得。(52年, 6段)
- ・ 礼儀作法を学んだことで実生活に生かされている広島します。(41年, 3段)
- ・ 人に教える難しさ, 年齢にあった稽古方法 (29年, 3段)
- ・ 体力の維持と強化, 姿勢の意識などを得ています。また年齢とともに友人, コミュニティの広がりが良い効果だと思っています。(44年, 6段)
- ・ 忍耐強くなった (42年, 3段)
- ・ 礼節, 体力の維持, 人間関係, 自己啓発など (50年, 8段)
- ・ 日本古来より伝わる武道にふれることの重要性社会人としての礼儀作法の所作スポーツを通しての自身の身体的向上指導・育成という立場の重要性及びその指導方法の工夫 (20年, 5段)
- ・ ・ 体力の向上・勝負に勝つことへのこだわりを持つようになったきっかけが剣道であり、練習をいかに工夫するかを考えるようになった。その考え方は仕事への自己研鑽にも通じている。(24年, 4段)
- ・ 感謝の心, 相手を想う気持ち, 気持ちのコントロール (34年, 6段)
- ・ 忍耐強くなった (31年, 4段)
- ・ 集中力, 忍耐力がついた (38年, 5段)
- ・ 人間形成社会で生きて行く上で全てが良かった (60年, 7段)
- ・ 健康のため (49年, 不明段)
- ・ 精神的な忍耐力を養われた (55年, 4段)
- ・ 礼儀作法を取得でき、自分自身精神的に強くなることのできた (24年, 4段)
- ・ 礼儀作法, 円滑なコミュニケーション (49年, 6段)
- ・ 礼儀作法 (34年, 6段)

- ・我慢を覚えた。(30年, 4段)
- ・礼儀, 忍耐力, 責任感(47年, 5段)
- ・私生活や仕事の全てにおいて, 武道で学んだ自分を出して生きていけていると思っています。(31年, 7段)
- ・心と身体が鍛えられる。(56年, 2段)
- ・人との付き合い方, 見極め, 相手の気持ちの理解などと言った人間力を養うことができ, 社会において, 苦しい時, 辛い時にも武道での経験が支えとなって, 強い人間を形成してもらったと感じる。(40年, 7段)
- ・○正しい礼儀による人間関係の構築(64年, 4段)
- ・色々な所作の習得(42年, 5段)
- ・努力の成果を実感出来ること。世代間がなく且つ多様な職種の方と交流が出来ること。(56年, 7段)
- ・生活が活性化するとともに, 体調管理がスムーズになっている。指導するうえでも, 自身の心の鍛錬になっている。(54年, 7段)
- ・忍耐力と観察力がついた(31年, 1段)
- ・心身を整えながら, 人とのつながりを持つことができた(41年, 7段)
- ・身体の操作をとおして心の働きを実感することで, 自我の確立に効果を得た。(45年, 7段)
- ・自分自身の心身を大切にするようになり, また, 剣道できること, 道場, 師, 剣友等々感謝する日々を過ごすことができています。(58年, 7段)
- ・忍耐と根性が, 得られた(41年, 5段)
- ・(無回答)
- ・健康と体力の維持(36年, 3段)
- ・体力向上忍耐力(27年, 6段)
- ・健康維持, 人との繋がり, 感謝の気持ち, 謙虚な気持ち, 目標を持てる, 歳をとっても成長できる喜び など(46年, 2段)
- ・剣道の理念にもあります様に剣の理法の修練による人間形成の道であるまさしく日常生活に於いて徳を積むことの大切さを幼少時から植え付けられて育ちました。また剣道を含め武道は日本古来の伝統文化道徳でありますので日本人としての誇りを胸に秘め生活しています。(51年, 7段)
- ・友人がふえた。体力が付き健康になった。(57年, 7段)
- ・人間関係(27年, 5段)
- ・礼儀などを学べと思っています。(16年, 4段)
- ・子供の時に武道を始めてから長い間が経ちました。そのかん, 生きている間に色々な辛い事がありました。それを乗り越えられたのは武道のお陰だと思っています(55年, 7段)
- ・人間性の向上, 気力の充実, 礼儀作法等様々な分野での学び(34年, 6段)
- ・人格形成に役立った(50年, 7段)
- ・本邦において, 剣道における礼節は, 他のスポーツ競技と比較し, 社会生活をおくるうえで役に立つことが多いと感じる。(35年, 4段)
- ・無心でいられる(17年, 2段)
- ・人間形成(40年, 7段)
- ・人間形成(50年, 7段)
- ・運動不足解消, 人とのつながり, 人生の支え(43年, 7段)
- ・忍耐力が身に付いている。また挨拶がしっかりとできています。(36年, 7段)
- ・精神力が付いた事昇段の喜びとともに何事にも立ち向かう気持ちが養えた事(54年, 7段)
- ・武道に限らず全ての事に共通しますが, 奥が深くどれだけやっても底は見えない。(20年, 3段)
- ・学ぶ喜び・楽しさ。(一本を見分ける難しさ・楽しさなど。)(7年, 3段)
- ・体力, 精神力の維持, 向上(58年, 3段)
- ・謙虚な人間になりたいと思うようになった。(49年, 7段)
- ・仕事上の忍耐であったり, いなし方や, 人との距離のとり方, つきあい方などで効果が思ったように思う(3年, 3段)
- ・剣道を通じ, 話し方, 立ち振舞や姿勢の良さなどが身につけているのかなと思います。(43年, 4段)
- ・厳しい稽古の乗り越えたことにより, 困難なことがあっても, 諦めず取り組むことができたまた, 礼儀作法や挨拶はもちろんのこと年齢問わず色々な世代の方と触れ合うことができた(25年, 4段)
- ・目上の人との接し方をよく学べた。(14年, 3段)
- ・
  - ・全身運動・筋力・瞬発力の強化・姿勢改善・調整力の向上・礼節の習得・集中力の向上・忍耐力・自己克服・心身の調和・協調性・人間関係の構築・公平性・規律の尊重・世代を超えた交流(35年, 6段)
- ・心を熱くしつつ, 冷静な判断がとれる自分との語り合いができる相手との心のやり取りができる(39年, 7段)
- ・人との繋がりができた相手を敬う心が育った(16年, 5段)

- ・自分と向き合う姿勢，他の人を理解しようとする気持ち，我慢や忍耐力など精神的な部分で強くなれた。（59年，7段）
- ・身体操作への探求から他の武道，スポーツへの関心がより深まり武の部分より文への興味が多くなりより日本の文化歴史さらには他国の文化歴史にまで意識するようになった。（12年，5段）
- ・元気でいられる（69年，7段）
- ・姿勢保持，礼節，人付き合い（42年，5段）
- ・特に少年指導に心掛けていることですが，試合に勝つことはもちろんですが，本来の剣道の目的である人間形成，相手を敬う心，正しい行動等を子供たちに身に付けさせる指し導に心掛けている。そのためは自らが，子供たちの見本となるべく行動をせしめればならず，指導を通じて子供たちの成長のみならず，自分自身も成長出来ていると感じております。（55年，7段）
- ・人間性を向上させてくれたと思う（58年，7段）
- ・諦めないこと（48年，6段）
- ・集中力が身についた（40年，7段）
- ・長い間健康でいられた（56年，7段）
- ・挑戦する意識が高くなった（37年，5段）
- ・人間関係の広がり（54年，5段）
- ・人間的成長（30年，5段）
- ・スタミナを得た，仲間を得た，スポーツマンシップの心を得た（18年，3段）
- ・（息子のことを記載しました）入学して新しく習い事をと考えた際に，親子でできるものや息子がリクエストしてくれたので，合気道をはじめました。それからお友達を通じて剣道もはじめたところです。挨拶や正座がうつくしくなりました。まだまだ技は勉強中ですが，楽しく習っています。（28年，0段）
- ・礼節ができるようになった（41年，3段）
- ・心身の成長（32年，6段）
- ・友達が多くなった（29年，6段）
- ・武道から学んだ人間関係などが，社会人となっても生きました。（35年，4段）
- ・自信や誇り（40年，6段）
- ・生活に張りや節度がでている。心身の健康を心がけるようになった。感覚を大切にできるようになった。人脈が広がっている。1つのことを続けることの大切さを感じるようになった。社会貢献（51年，7段）
- ・精神的には強さと物事を考える柔軟さが得られた気がします。（41年，3段）
- ・礼儀正しきや忍耐力が，身についたと思います。（34年，0段）
- ・忍耐力，行動力，気配り（52年，3段）
- ・礼儀作法，忍耐力，精神力が身についた。努力の大事さ，人に対する思いやり，目配り気配り心配りが出来るようになった。（44年，4段）
- ・忍耐力が強くなった。礼儀思慮深さが出てきた。（58年，7段）
- ・逆境に負けない精神力が身についた（42年，4段）
- ・人格形成（60年，5段）
- ・諦めない，挫けない強い精神力が鍛えられたと思う（40年，6段）
- ・礼儀作法 健康維持 忍耐力 我が子からの畏敬 周囲からの信頼（36年，5段）
- ・人間形成（22年，5段）
- ・（無回答）
- ・旧態依然の体制のしがらみ（6年，3段）
- ・礼儀，志など教えていただけだと思います。（30年，3段）
- ・子供の時から幅広い年齢層とコミュニケーションを取ることでもの応じせず礼儀を持って会話ができて社会でも生きていと感じた。特に社会人1年目にそう感じた。（24年，4段）
- ・営業ですが，剣道に例えて，実践行動思考になって居ます。剣道の相手との距離を縮めるには，気攻め，体攻めが伴い，相手が反応する。自身の思惑通りに動かし，打突する。営業も，顧客に対して考察し，反応予測し，行動計画を立て，アプローチをする。プロセスは一緒だと思いますし，なぞらえて行動するようにしています。（50年，7段）
- ・心身ともに鍛えられた。（19年，5段）
- ・礼儀や感謝の気持ちの大切さを知り，継続力を備えられたことで，人として成長できたこと。（51年，6段）
- ・自信がついた。（49年，7段）
- ・礼儀作法がしっかり身についた。剣道の上達とともに，少しずつ人間形成も出来てきた様に感じる。（50年，7段）
- ・粘り強く物事に取り組むこと，視野を広く気を配れるようきになったこと（26年，6段）
- ・姿勢がよくなった。辛抱強くなった。（21年，6段）
- ・友人や知人に多く出会えた（48年，7段）
- ・挨拶等の人間形成（44年，7段）

- ・健康維持（48年，6段）
- ・考え方と生活における忍耐性（48年，7段）
- ・礼儀，忍耐，勇気（55年，7段）
- ・嫌なことから逃げない力が身についた（28年，5段）
- ・体力増強，ストレス軽減，集中力の向上，人脈の広がり（31年，3段）
- ・対人関係の向上自律心の向上（14年，4段）
- ・周囲への気遣いや礼儀を大切にするため，社会生活でも他の人に不快感を与えることが少ない．つらいことでも目標のためであれば粘り強く取り組める．（34年，2段）
- ・昇段審査はとても良い経験でした．（53年，7段）
- ・社会に出ると成長の糧としての日々の訓練がだんだんと減ってくる．剣道で勝てば自信を得て，負ければ反省するような，鍛錬は貴重と思う．（51年，7段）
- ・礼法，作法の充実（41年，4段）
- ・心身の成長と忍耐力（44年，7段）
- ・人間として成長できた．辛いことにも立ち向かえる，嫌なことから逃げない心が備わった．（35年，7段）
- ・体を動かすことで，日々の活力になっています．武道に限ったことではありませんが．（25年，3段）
- ・行動力，精神面について変わって来たと思います．（53年，6段）
- ・忍耐，姿勢（27年，1段）
- ・忍耐や技術を習うことによって体の使い方を知れた事と，礼儀を学ぶ事が出来ました（29年，0段）
- ・観察する力（28年，6段）
- ・課題に対してどのようにアプローチするかを自分で考え実行，振り返りのようにサイクルを回して改善する原点は仕事にも活かしている．・忍耐力（24年，5段）
- ・礼儀作法を学び，日常にも取り入れられた（24年，2段）
- ・大きな声を出す，心身の鍛錬（34年，3段）
- ・相手の気持ちを理解するように，努力し，感謝の気持ちを，忘れないようにしている．（55年，6段）
- ・精神の落ち着き，辛抱強さ，集中力，体力の維持・向上，人間関係の構築・拡大（53年，7段）
- ・交流の輪が，広がった．日常の困難や面倒でも，真摯に向き合い解決出来るようになった．体調や健康に気を使うようになった．（40年，5段）
- ・身体能力向上，バランス感覚向上，コミュニケーション能力向上，礼儀作法やマナーの習得．（41年，3段）
- ・心身の向上（56年，7段）
- ・1.体力の維持向上 2.自分の精神面での成長と師弟・友人関係の創生 3.他に誇れる自身の特質の一つとして自信を持てる（61年，6段）
- ・忍耐力，精神力の向上．礼儀の考え方．生涯の趣味．周囲からの経歴に対する評価．（24年，3段）
- ・礼儀正しくなり，武士道の精神が身についたように思う．（48年，3段）
- ・他人を思いやる気持ち心の落ち着かせ方他人との関わり方物事の円滑な進め方（47年，4段）
- ・自らと向き合えるようになった．克己の心を持てるようになった．（40年，4段）
- ・所作，礼儀作法を身に付けられた（不明年，7段）
- ・矛盾を勉強した（49年，7段）
- ・人として成長できた（12年，3段）
- ・人間関係の在り方（34年，5段）
- ・礼儀や人間関係を学ぶことが出来て，大人になった今も有意義に感じる（21年，2段）
- ・しっかりとした言葉で人に伝えられるようになった．（29年，5段）
- ・忍耐力が身についた（1年，1段）
- ・我慢強さ．相手の事を考える（40年，6段）
- ・自分を律することができる（36年，7段）
- ・体力増強，健康維持仲間がたくさんできた（48年，6段）
- ・運動能力，体力の向上礼儀作法を学び，実践できる交友関係の広がり（6年，3段）
- ・仲間が増えた．体調管理が良くなる．コミュニケーション能力がアップする．（50年，7段）
- ・物事の考え方・仕事への取り組み方に対して，前向きに（どうしたら前進出来るか？）考えられる様になった．（13年，5段）
- ・自らを律し，難にあたって冷静に対処できる（46年，7段）
- ・礼儀作法について努力すれば結果が出ることもある（34年，6段）
- ・加齢に伴う体力の減退の予防（53年，6段）
- ・（無回答）
- ・心身の鍛錬，人間形成に繋がる．（43年，7段）

- ・ 仕事など他の分野に対しても初心を取り戻す事ができる。（2年，1段）
- ・ 継続力集中力（46年，7段）
- ・ 愛国心，家族への感謝，礼儀作法などを武道を通して学びました。（41年，7段）
- ・ 人間として礼儀作法が身についた（58年，7段）
- ・ 心身健康（47年，7段）
- ・ 心身の成長に役にたった。仲間との交流で輪が広がった。せ（63年，6段）
- ・ 礼儀を重んじる事と自身の精神力の強化（39年，6段）
- ・ 礼儀作法，相手を思う心（51年，3段）
- ・ 体力維持（33年，5段）
- ・ 礼儀，人を敬う心，誠実さなどの内面の成長。姿勢，健康的な体格など外面の改善。（23年，5段）
- ・ 素直，謙虚，礼，克己心等，養われた。（55年，7段）
- ・ 処世術が身についた。（39年，5段）
- ・ 敬いの心が養われ，忍耐強くなりました（46年，7段）
- ・ 礼儀作法の基礎をいただいた（40年，4段）
- ・ 自分の精神力を鍛える（50年，6段）
- ・ 礼儀を重んじること。集中力・精神力・忍耐力が身に付くこと。人間関係・人との接し方・上下関係・また協調性等を養うことができること。（52年，5段）
- ・ 人間形成（28年，5段）
- ・ 身体を隅々まで使う意識が持てたこと（29年，4段）
- ・ 稽古相手を敬う気持ち（41年，5段）
- ・ 体力，気力の充実と合気が理解できた様に思う。（59年，5段）
- ・ 気が強くなった（19年，4段）
- ・ 精神的にも肉体的にも成長できた（20年，3段）
- ・ 小さい頃から礼儀を学んだ（39年，4段）
- ・ 精神的に強くなれた（36年，5段）
- ・ 競技としての武道よりも日本人としての精神性を重んじる姿勢。（18年，5段）
- ・ 我慢強さ地域文化への理解（31年，5段）
- ・ 健康，コミュニケーション（47年，7段）
- ・ 忍耐，洞察力・先見性仕事上大いに役立っていると思います。（43年，5段）
- ・ 自分自身と向き合う相手へのリスペクト（15年，5段）
- ・ 武道を通じて学んだ事で強い精神力を養えました。（38年，3段）
- ・ 礼儀，忍耐，競争意識，思いやり（34年，5段）
- ・ 生涯行なう事が出来る，剣道を通じて，人生が豊かになった。（44年，5段）
- ・ 辛い練習の先には成果があると信じられるようになったこと。（42年，5段）
- ・ 社会に出て相手との距離感が上手になりました（51年，7段）
- ・ 忍耐力がついた（45年，1段）
- ・ 現在の職業（教員）（49年，5段）
- ・ 自分自身の考え方，価値観が大きく変わりました。これにより人との接し方，社会の価値観，考え方が大きく変わりました。（14年，5段）
- ・ 人格形成（47年，7段）
- ・ 苦しいことから逃げない心，自分自身の限界を越えること。（14年，5段）
- ・ 心の持ちようについて，学ぶことが多い。（44年，4段）
- ・ 日本人という自覚と結果より過程を大切に，責任感・誠実さを持つことを学べる（44年，5段）
- ・ 人間として成長できるものだと思います。対人関係など，とても共通するものがあると思っています。（37年，6段）
- ・ 忍耐力（26年，5段）
- ・ 我慢強さ，相手を思う気持ち（46年，6段）
- ・ 武道を通しての仲間が増えた（50年，6段）
- ・ 相手の気持ちを考える（44年，4段）
- ・ 何歳になっても自己啓発及び人間形成として成長させてくれる。（22年，4段）
- ・ 忍耐力，相手の立場になってものごとを考える（32年，5段）
- ・ 礼儀作法（24年，4段）
- ・ 物事に対する真摯な態度他者への敬意（50年，6段）
- ・ 礼儀，相手を敬う心が身についた。（48年，6段）
- ・ 武道を通じて礼儀作法や人間関係大切さ，心の在り方を学びました。（33年，6段）
- ・ 生涯スポーツと考え昇段に合わせそれなりに目標を持ち生きの長い武道即ちスポーツと考え心身共に健康で小学生から成人高齢者と年相応に出来るスポーツと考えています（63年，7段）
- ・ 礼儀（33年，5段）
- ・ 礼儀礼節や思いやりなどの心が養われました。また，剣道では，稽古での技術的なものだけではなく，紐を解けないように結び，必要な時には，すぐに解くことができるという（紐の文化），日本の文化を習熟することも出来ました。さらに，宮本

- 武蔵の言葉、我以外皆我師などの故人の教えについて、剣道を通じて学ぶことで、礼節とは異なる人間性の幅を広げていただきました。（41年、7段）
- ・精神力の向上、礼儀作法、指導能力の向上（45年、6段）
  - ・健康、やりがい（50年、7段）
  - ・精神的に強くなれた（47年、7段）
  - ・礼儀の重要性を得た（27年、5段）
  - ・対人関係（接し方）（41年、7段）
  - ・心身を鍛えることにより我慢強くなれている（つもりです）。相手にことを考えることができるようになってきている（つもりです）。（45年、5段）
  - ・諦めなくなった、人との間合い接し方がとれるようになったような気がします。（53年、5段）
  - ・日常生活において他者の気持ちを理解し善悪の判断を考え生活できている事。（47年、7段）
  - ・私は、20歳頃から出身道場で指導者として子供達と一緒に稽古に励んでいます。数多くの子供達を指導してきましたが子供達には色々な性格の子がおおり怒って伸びる子や褒めて伸びる子などあらゆる角度から大きな視野を持つ必要があるかと思えます。永年指導をしてきましたが教える事よりも指導をしていく上で教わる事の方が多いかと感じております。（46年、6段）
  - ・忍耐力、人脈の広がり、指導力（54年、6段）
  - ・向上心を常に持てること（56年、7段）
  - ・決して楽しいものではないし、続ける事はきつい辛い事が多い。やめることは簡単だがやめずに続ける事により、人間関係や自分自身のメンタルなど生活していく中で役に立つ事が多い。（40年、5段）
  - ・（無回答）
  - ・健康に役立つ。礼儀作法が学べる。人とのつながりができる。教育に貢献できる。（39年、1段）
  - ・礼儀作法周囲への配慮職場、学校以外のコミュニティ（26年、5段）
  - ・礼儀や集中力が身に付いた（36年、2段）
  - ・日常における礼儀作法や忍耐力、洞察力などを身に付けることができた。（35年、3段）
  - ・自信がつく（18年、3段）
  - ・身体操作の方法や原理について興味を強く持つようになった（13年、0段）
  - ・剣道を通じて姿勢がよくなり、また大きな声で物事を的確に伝えられるようになりました。試合での緊張感、審査への取り組みなど年を重ねても続けられる趣味（武道）があって良かったと思います。子供からも年配の先生方からも学ぶことがたくさんあり、日々勉強です。（43年、6段）
  - ・体力維持精神統一（47年、3段）
  - ・心身を鍛えることができる。（0年、0段）
  - ・挑戦すること（35年、5段）
  - ・礼儀作法が身に付き、先輩や同輩、後輩との人間関係が広まり、大人になってもいろいろな場面で役に立っている。（50年、7段）
  - ・剣道を通して自分に厳しく人に優しく、そういう気持ちになれた。（33年、7段）
  - ・相手を思いやる気持ちや尊敬する気持ちを得ることができる点。礼儀作法を身に付けることができる点。精神力を鍛えられる点。（33年、7段）
  - ・相手との関わり方、自分の気持ちの示し方などを身につけた。身体能力が上がった。交友関係が広がった（42年、5段）
  - ・礼儀作法が身に付いた。体力、精神力が向上した。（42年、7段）
  - ・相手と正対し真剣に稽古することを通して、人間関係を大切に感謝して生きることを実践できる。（19年、2段）
  - ・礼節や所作の重要性という精神面のみならず、体幹・基礎体力の維持・向上をはじめとし、より効率の良い動作が行えることなどの身体面での成長・効果を実感している。（40年、5段）
  - ・礼儀と健康（46年、6段）
  - ・人間関係が広がった。体力の向上。礼儀の習得。目上の人に対する適切な態度の習得。（37年、6段）
  - ・体力がついて持久力がつき、夏の暑さや運動するのが苦と感じることが少なくなった。ある程度のストレスへの忍耐力がついた。県外の友人と交流することで人脈が広がった。（36年、3段）
  - ・心身向上（46年、7段）
  - ・平常心（52年、5段）
  - ・子供のころは競技性を重視していたが年齢を重ねてからは精神面で成長していると感じる（48年、7段）
  - ・心身共に健康になった（64年、8段）
  - ・挨拶、礼儀の習得幅広い人間関係の構築肉体及び精神力の強化（40年、5段）
  - ・礼儀作法（14年、3段）

- ・年齢よりも若々しい動作，物事を探求し努力する力と，日常生活における様々な所作を習得する効果が得られたと思います。（58年，6段）
- ・日常生活のなかに精神が取り入れられて言動に関わりを感じる（63年，7段）
- ・礼儀を通じて自己を成長させられた。（53年，6段）
- ・相手の動きに対してどのように対処すべきか考えられるようになった（18年，3段）
- ・子供たちのために何が出来るか深く考え，子供たちとともに時間を過ごすこと，子供たちの小さな成長を共感することの楽しさを感じている（45年，4段）
- ・精神力が向上した指導を通じて自分を見直すことができる（51年，7段）
- ・心と体の健康により日々感謝の念で生活させていただけていること。（42年，7段）
- ・礼節や人との関わり方に役立っている。また年齢的に健康面でも非常に役に立っている（42年，5段）
- ・声が大きくなった。（26年，5段）
- ・掛かり稽古など激しく辛い思いがありました。しかし，終わった後の達成感など今では仕事に置き換えて乗り越えられる活力になっています。さらに，礼儀作法は相手との人間関係を築く為に必要で，剣道やっけて良かったなとおもいます。（37年，4段）
- ・剣道は人間形成の道と言われるだけあって，礼儀を学べ，体力がつき，気持ち面でも強くなれた。（38年，5段）
- ・生きていく上で，自信がついた（41年，6段）
- ・様々な人との交流。（同年代から高齢者まで）（11年，3段）
- ・達成感を覚えることができた。辛抱することを経験できた。（51年，3段）
- ・なし（32年，3段）
- ・礼儀作法・根性・独立力・相手への思いやり（53年，5段）
- ・強さは大切だが礼儀はそれよりも大切だと学んだ（11年，2段）
- ・相手の気持ちなどを考える事ができるようになったと思います。（26年，2段）
- ・礼儀と寛容さ，年少者への思いやりが得られたと思います。（16年，5段）
- ・自己肯定感があがる（44年，5段）
- ・心身の健康，人間関係の構築（48年，5段）
- ・忍耐力，健康の維持（58年，7段）
- ・風邪等ひかない（59年，5段）
- ・人間形成（50年，7段）
- ・師や仲間との関わりを通して，礼儀や思いやり，協調性が育まれ，大会や指導などを通じて，地域社会とのつながりが深まった。（54年，7段）
- ・礼儀作法 忍耐力 精神力（24年，5段）
- ・いざという時の決断力（47年，6段）
- ・基礎体力・精神面の強化対人関係のコミュニケーション能力の向上児童への教育・指導方法の習得（10年，3段）
- ・精神の安定に良い影響があったと思います（48年，7段）
- ・礼儀作法の習得，体力・精神力強化など（32年，6段）
- ・精神力が高まったり，心のコントロールが改善したりしたと感じている。（21年，4段）
- ・礼儀，人脈の拡大，気持ちの持ち方（52年，7段）
- ・心の成長（45年，7段）
- ・忍耐力がついた。礼儀が身に付いた。（37年，4段）
- ・日常生活での挨拶が1番目立つ効果であると感じる。最近では挨拶をしても返さない，自らしな人が多い中でただ一言挨拶をしっかりと出来るだけで周りからの評価が変わった。やっていることは当たり前的事ではあるが，武道を通じて礼法を学んだおかげだと思う。（28年，4段）
- ・社会に出てからの対人に対する関わり方の姿勢（34年，5段）
- ・健康になれた（42年，6段）
- ・仕事においても度胸がつき，動じない心が身に付いたと思います。（43年，5段）
- ・剣道を通じて友と出会い人生が豊かになった。（53年，7段）
- ・礼儀作法整理整頓対人関係等（42年，3段）
- ・心身の健康及び社会性ができた。又友人等の繋がりが多くなった（55年，7段）
- ・剣知愛（40年，5段）
- ・日本人としての礼儀，美学を知ったり，鍛錬，頑張ることの良さを教えられた。（50年，6段）
- ・体を動かす良い機会である。（1年，1段）
- ・躰が調う。（65年，7段）
- ・高い集中力。洞察力向上。社会性の向上。（36年，6段）
- ・自分の軸，自分の自信になっている（46年，6段）
- ・正義感，責任感，社会貢献などの心が養われた。（58年，7段）
- ・まず健康になったこと。先輩，後輩，先生，をだいにすること。謙虚な生活をおくれること。（60年，7段）

- ・技術だけでなく人との繋がりや上下関係など沢山の事を学ぶことができました。（26年，5段）
- ・人との繋がり（32年，5段）
- ・社会性が身につく日常生活においても仕事に相手も常に冷静な判断ができる。気力，体力が同年代と比べ衰えない。（47年，7段）
- ・喜怒哀楽，礼儀作法，人間性，相手の気持ちになって考えるようになった。（38年，6段）
- ・日本人として誇りを持てる。（49年，7段）
- ・自分の弱い所，見つめ，それを改善する努力（32年，3段）
- ・剣を通じて己の心を磨き，人としての道を学ぶ人間形成の道を学んでいる事（47年，7段）
- ・礼儀を身に着け，さまざまな年代の方と接することで，コミュニケーション能力も向上したと思います（33年，6段）
- ・精神面の強さ（27年，5段）
- ・人生そのもの。（59年，5段）
- ・集中力が付く，他者の気持ちをまず理解してみようという考えが先に来るようになった（38年，4段）
- ・人としての成長（52年，7段）
- ・段位をとる事で，やり続ける事の重要性に気付かされました。（8年，2段）
- ・就職に有利だった，人とのつながりが増えた（23年，6段）
- ・礼儀作法等で人との関わり方が少なからず変わってきたと思います。（10年，2段）
- ・精神力の向上と人間形成（34年，6段）
- ・精神的に強くなる（58年，7段）
- ・小さな行い，あいさつ，靴を揃える等当たり前のことを武道やっているんだからと小学生の頃からご指導いただいたことが今でも活きている。忙しくてつい甘える，ということはほとんどないのは武道での御指導おかげかと思います。（29年，6段）
- ・剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。（45年，7段）
- ・相手のことを思えるようになった（53年，5段）
- ・苦しさを乗り越える力と人と人とのつながり。（29年，4段）
- ・守破離の教えにあるように，何事も基本を学び，そしてその学びを乗り越えて，日常生活とも一体としていくことの大切さを教えられる等様々教えが自身の人生の中でも腹落ちできる考え方に会うことができました。仏教用語でもある『無財の七施』は，先生から教わり，私の座右の銘となりました。（59年，7段）
- ・忍耐力が養われた。挨拶ができようになった。身体が丈夫になった。（51年，7段）
- ・健康，人間関係の構築（46年，5段）
- ・礼節を重んじる心（25年，2段）
- ・例に始まり例を持って行い例に終わるとい言葉のように，どんな時も礼儀をもって物事に向かうことが大切だと感じています。（11年，3段）
- ・我慢する心が養えた。（59年，7段）
- ・礼に始まり，礼に終わるの教えが社会人となって，強く生かされている（33年，3段）
- ・大きく捉えれば，相手の気持ちを考える心細かく言えば，年上の方を敬う心，後輩を可愛がる心など精神的な成長。身体能力の向上。人との交流など。（27年，5段）
- ・経験 人脈（49年，5段）
- ・対応力，調整力，俯瞰的視野，言語表現力，発想力，対人能力などの向上（44年，7段）
- ・攻防の中に対話に通ずるものがある（42年，7段）
- ・礼儀が自然に備わった。後進の方への指導やりがい健康への助け交友の広がり，（69年，7段）
- ・挨拶や礼儀，所作が少しは身についたと思います（43年，7段）
- ・礼儀作法・忍耐力・精神力・集中力・体力が身についた（45年，7段）
- ・体力の向上（58年，7段）
- ・自分自身で忍耐力等が付き，コミュニケーション能力等はかなりついた。（42年，5段）
- ・健康，言語明瞭，覇気，リーダーシップ（統率力），コミュニケーション力，礼儀，胆力，集中力等の修得（61年，7段）
- ・礼儀正しさが身に付いた。私生活，仕事においても，人を気付かせるようになったと感じる。（36年，5段）
- ・礼儀作法が身についた忍耐力の向上（12年，3段）
- ・上下関係を学べた（15年，4段）
- ・姿勢が良くなり，集中力，忍耐力が向上し，健康的な生活習慣が身についた。また，武武道（剣道）に引退はなく，生涯にわたりできる。（37年，7段）

- ・ 人間関係など (33年, 5段)
- ・ 礼儀作法やあいさつ目上の人に対する言葉遣いなどを学ぶことができた (37年, 5段)
- ・ 集中力がついた姿勢がよくなった続けることの大切さを学べた (36年, 6段)
- ・ 心身ともに健康に過ごすことができている。武道 (剣道) を実践し, 体力を身につけ, 国民の平和を守る仕事に就いている。 (38年, 7段)
- ・ 体力向上, 健康増進 (10年, 3段)
- ・ 武道の実践を通して, 忍耐力や礼儀を学ぶことができました。剣道は生涯スポーツと言われているように, 年上の方と剣を交えることが多くありますが, その際に適切な言葉遣いを学ぶことができました。また稽古は決して楽なものではありませんが, どんな時でも自分自身の鍛錬の場と捉え, 弱い自分に打ち勝てるようになったと実感しています。 (10年, 3段)
- ・ 礼儀作法を正しく学ぶことができ, 日頃から挨拶をすることで周りの方々とのコミュニケーションを取ることが, 仕事や私生活の充実につながっていると思う。 (29年, 5段)
- ・ Kendo has helped me to understand myself in different stages of life. Specially in hard times, it howght me to give my best and don't give up.目標か夢を叶うためにあきらめないこと (19年, 5段)
- ・ ストレス解消, 日常のストレスを忘れ, 心を落ち着ける時間を持つことができた (6年, 3段)
- ・ 礼儀の重要性, 周囲に目を向け気にする力体力, 筋力の向上 (34年, 7段)
- ・ 礼儀作法 (37年, 5段)

自由記述回答一覧（中学校での武道必修について）（ ）内は、継続年数、段位

- ・ 日本文化の特色を武道を通じて親しみ、日本人として日本という国を考え、そこに誇りを持って各分野で活躍出来る人材の育成に役立っているのではないかと感じる。（48年、5段）
- ・ 歴史に紐付けての学びとになっていないことから効果らないと感じる（42年、7段）
- ・ 相手とのコミュニケーション能力の向上、問合やかけ引きを理解する（40年、7段）
- ・ 武道を通じ、挨拶や返事、姿勢などの取り組む意識がかわる（35年、7段）
- ・ 礼儀、作法、初歩的なことからでしょうが成長の上で大切なことが学べればと思います（47年、7段）
- ・ 礼儀（38年、6段）
- ・ 礼儀作法コミュニケーション能力改善（叩く事で相手への思いやり改善）（37年、7段）
- ・ 礼儀作法相手を思う気持ち（28年、5段）
- ・ 授業など中途半端な学習では得るものは限定的と思う。中学校剣道部でも首を傾げなくなる生徒はいる。武道とは道なので継続することがとても大切だと思う。（53年、6段）
- ・ 礼節であったり相手を敬う気持ちを育てて欲しいが、指導者(学校の先生)次第であると思う（32年、7段）
- ・ 色々な意味で長い人生の中で、良い効果をもたらすものと考える。（55年、7段）
- ・ 礼儀作法（65年、7段）
- ・ 見えない空気感（13年、2段）
- ・ 正直に申し上げます。現段階で、本当に武道を理解されている指導者が少なく、私自身も日々学びの精神で多くのことを子供達を通じて学ばせていただいておりますが、武道という幅広い競技の中での考えではなくてしまいますが、私自身剣道を通じて、自分を理解し、他人を理解し、そして武道というものはなんなのかを求められるのだと思っております。自分自身も他人も理解できていない方々が正直、学校の先生方の中でも多くみられると私は考えております。なので、現段階では子供達に武道を通して人としてのあり方や、生きていくために何が必要なのか、人と人との出会いの中でどう接していかなければいけないのか、まだまだ求めていくことの中で多くのことはありますが、今文章にしていることすら現代の子供達には何も伝わっていないと私は確信いたします。（39年、7段）
- ・ 日本の伝統文化にふれ、西洋化した現代でも、礼節、敬意、所作のすばらしさに気付くかもしれない（49年、7段）
- ・ 効果はあまりないと思う（41年、5段）
- ・ 住む国の文化に触れるという面でまず魅力的だと思うし、何より剣道経験者が唯一活躍できるこの場が何よりも気持ちいいので、他人に教えることで自分のスキルを見直したり協調性が磨かれると思う。（6年、3段）
- ・ 礼儀。人への痛みを理解し自分の力の怖さも理解できる（36年、3段）
- ・ 他者を尊重すること。（59年、6段）
- ・ 学校でやる授業では中途半端な経験しか得られないので意味がないと思う（30年、3段）
- ・ 礼儀作法が身につく、人の痛みが分かると思います。（52年、7段）
- ・ 礼儀正しさ精神的な強さ（31年、5段）
- ・ 指導者がどのように教えるかによって、全く異なると思います。私の中学生に時は、剣道部のもの出て来いと呼ばれ、みんなの前で説明させられました。中学生でするので、大したことは説明できなかつたと記憶しています。（51年、6段）
- ・ 私は中学校の教諭で剣道部の顧問をしている。剣道の稽古を通して、日本の文化を知ることができるよう話をしている。私の中では、剣道部は文化部の側面も強くあると考えており、礼式に込められた意味、立ち振る舞いに関する身体の認知と理、お相手がいるから稽古ができることへの感謝から仲間を大切にする気持ちを育むことなど、一つ一つの稽古内容に意味があることを伝えている。（25年、3段）
- ・ 礼法等高めることができる（30年、7段）
- ・ 日本古来の文化や作法を学ぶのに役立つ（32年、5段）
- ・ 日本文化への関心や武道独特の身体操作が培われる（12年、5段）
- ・ 武道に親しみを感じ、学ぶ機会。（42年、6段）
- ・ 礼儀作法の所作を学ぶ（37年、6段）
- ・ 日本文化の理解。運動能力の向上。（36年、6段）
- ・ 実際に触れていないが礼儀が身につく、と思う。（22年、4段）
- ・ 礼儀作法（45年、7段）
- ・ 精神的な部分に運動能力や団体力に効果があると思う（42年、5段）
- ・ 実技だけでなく、精神性も学んでもらいたい（48年、6段）
- ・ 大変良い（61年、7段）
- ・ 学習指導のあり方による（33年、7段）

- ・ 人間形成の習得（50年，7段）
- ・ 古を考える良い機会となる。（59年，6段）
- ・ 礼節（44年，3段）
- ・ 他者が感じる感情はどうかということを感じる。（40年，7段）
- ・ 日本の文化を知り，相手に対する思いやりが身につく。（57年，8段）
- ・ 効果があるとは，思っていない。（55年，6段）
- ・ 瞬間の判断や決断の能力開発に役立つ（63年，7段）
- ・ 反則ギリギリのプレーが称賛されるスポーツとは違い，他者への感謝の礼を持って，反則から最も遠い位置での正々堂々の良さを感じられる。（34年，5段）
- ・ 指導者が何を伝えたいかによります。（46年，7段）
- ・ 日本の文化を知ることができる。（15年，5段）
- ・ ①日本の文化と歴史の継承に貢献。②護身術を身につける効果。③叩かれた痛みを体感できる。（44年，5段）
- ・ 武道はサッカーや野球のように，身近にいない人が多いので，接点を作ることから始まり，関心を持つ機会となる事が一番の効果。体育の授業で，武道の本質まで学ぶことは時間的に厳しいが，国際社会において，武道を知らないのは日本人のたしなみがないと考える外国人も多い。（8年，3段）
- ・ 人間性の向上（42年，7段）
- ・ 素直に基本を学ぶ事で応用につながる。結果を体現できた時，面白さや悔しさをリアルに感じる事が出来る。（44年，3段）
- ・ （無回答）
- ・ 伝統を重んじ，心身を練磨する大切さを学ぶ事（2年，3段）
- ・ 忍耐力がつく（71年，7段）
- ・ 己の邪心を取り払う効果（55年，4段）
- ・ 体験ぐらいで対した効果は無いと思いました。（61年，5段）
- ・ 礼儀作法（37年，6段）
- ・ 礼儀作法（55年，7段）
- ・ 正座や姿勢を正すことを覚える。困難なことを乗り越える楽しさを学べる。（42年，7段）
- ・ 礼儀作法（39年，5段）
- ・ ①身体の強靭化・体力増強，②礼法や規律を通じた他者尊重の精神の醸成，③自分より弱い者へのいたわりの心の醸成，④チーム戦における仲間を信じ，自身の責任を果たす心の育成，⑤有効打突や試合での勝利の際の達成感・爽快感・楽しさの体験を基にした努力継続能力の向上，等々（48年，6段）
- ・ 日本の伝統文化を肌で感じれる（50年，3段）
- ・ 武道館を通じて日本古来である，武道を知り，相手に感謝をする精神を学んでもらいたい。（46年，4段）
- ・ 礼儀を学べる（20年，4段）
- ・ 自然と礼儀が身につく（11年，3段）
- ・ 礼儀作法等（56年，7段）
- ・ 武道の学習を通して，相手を尊重する心や感謝の気持ちが育つと思います。これからの日本の子どもたちは，将来グローバルな環境に身を置く機会が増えるはずなので，日本ならではの文化を経験できる貴重な機会で，とても良い経験になると感じます。剣道に関しては，道具の準備や費用の問題で個人が始めるには敷居が高い面があります。だからこそ，教育の場で一度は体験できる機会があると良いと思います。自分の娘の高校では，男子は柔道・剣道の選択制でしたが，女子はダンスのみでした。カリキュラムや学校方針によるとは思いますが，男女関係なく武道を経験できる機会があれば，より多くの生徒が武道の魅力を知るきっかけになるのではないかと感じます。（11年，3段）
- ・ 礼儀作法（32年，3段）
- ・ 心身の鍛錬（37年，4段）
- ・ 武道に触れる良い機会だと思います（44年，6段）
- ・ ①挨拶が出来る ②礼儀正しくなる ③友人関係が強固になる（51年，6段）
- ・ 礼法（53年，7段）
- ・ 礼儀作法や相手を尊重する気持ちが芽生える。（13年，3段）
- ・ 礼儀作法がしっかりできることで，社会生活や人間関係がより豊かになると考えます。（46年，7段）
- ・ 勝ち負けの大切さとともに相手を認める心の豊かさの醸成（51年，5段）
- ・ 礼儀作法，忍耐力（53年，6段）
- ・ 別にありません（60年，4段）
- ・ 内容がわからないが礼法などを学べると思う。（58年，7段）
- ・ あまり無いと思う。（57年，8段）
- ・ 武道を通して日本の伝統文化に触れ礼節を学び，人を敬う心を養う，近年薄らいできている人間関係を学ぶ機会となればと思います。（53年，8段）

- ・日本の伝統と良さとは何か(引き継ぐもの、進歩させるもの)を考える機会にできる。礼節を大切にし、自分自身並びに相手の気持ちや立場を考える心が育つ。(60年, 7段)
- ・剣道の稽古や試合を通して、日本の伝統文化を正しく継承し人間形成を目指し事。(59年, 7段)
- ・苦しい事や、辛い事から、逃げずに、他人を、思いやる心が、育つと思います。(54年, 5段)
- ・真剣に取り組む子や武道に関心のある子には、礼儀作法を学ぶ効果や技術習得の効果があると思う。しかし、興味のない子に対する短期間の体験では効果は見られないと思う。(31年, 6段)
- ・挨拶や返事ができるようになる(28年, 6段)
- ・礼儀作法が身につく(25年, 5段)
- ・心身の鍛錬礼儀護身術(28年, 6段)
- ・人間形成(26年, 5段)
- ・ありません。指導者がいないから(46年, 7段)
- ・剣道の授業において姿勢を正して剣道具を着けて竹刀で打つというように集中して学習しないとなかなか進歩が見えないものであるまた相手を打つという他のスポーツにはない競技であるため集中力や相手に対する思いやりなどが育まれると思う(33年, 6段)
- ・効果はない。我が国のスポーツの発展に重大なダメージを与える(59年, 7段)
- ・元気よく挨拶ができるようになる。(55年, 7段)
- ・礼儀作法・忍耐力(66年, 7段)
- ・礼儀正しくなり、人間的な成長(36年, 7段)
- ・体育での武道ですとかなり時間が足りないと思われまので、あまり武道の精神までは見に付かないのではないかと思います。武道を知る良い機会にはなると思います。(45年, 7段)
- ・礼儀正しさと痛みを知る事(40年, 6段)
- ・所作、挨拶、返事が出来るようになる。(44年, 4段)
- ・礼儀を身につける集中力我慢強さ(54年, 3段)
- ・礼儀(33年, 7段)
- ・礼節など礼儀を重んじる事が学べられる。声を出して心の発散、打ち込む事で集中力を高めてくれる。(44年, 4段)
- ・先生の教えを守り礼儀ただしく技能と共に精神面の修養も行います(55年, 5段)
- ・忍耐力精神力(35年, 4段)
- ・礼儀作法を学ぶことができるし、合気道などをやれば、護身術として自分の身を守ることに繋がると思う(11年, 3段)
- ・授業では時間が少なく、武道の本質を理解出来ないと思う。(54年, 7段)
- ・時間数が足りないので伝えきれないのではないかと。(50年, 5段)
- ・目標を設定し、きちんと成し遂げることと。家族、仲間、恩師に感謝の気持ちを忘れない。相手を敬うことを学べます。(52年, 7段)
- ・礼儀作法が身につく(20年, 5段)
- ・礼儀作法(31年, 6段)
- ・相手に感謝すること(48年, 5段)
- ・気力、集中力(46年, 5段)
- ・伝統文化の継承(55年, 7段)
- ・武道を行う事で、日本発祥の武道を一度体験する事は日本人として大切な文化だと思えます。(39年, 5段)
- ・指導を実際に見ていないので何とも言えないが、時間を確保でき、きちんと教えることができているなら、礼儀やその武道の良さを実感できると思う。(50年, 7段)
- ・礼儀、鍛錬、にほん文化への理解(37年, 7段)
- ・礼儀作法 相手を敬う剣道の試合で 勝っても ガッツポーズをしない。(52年, 7段)
- ・伝統文化である剣道に触れることによって、武道の精神や剣道の奥深さを体験することができる。また、礼に始まり、礼をもっておこない、礼に終わるという剣道の礼儀を重んじる姿勢を通して、人を思いやる気持ちを高めることができる。(不明年, 6段)
- ・普段の行動に自信がもてる。(31年, 5段)
- ・日本の伝統文化に触れることで、古の考え方を学ぶことができる。また、心身の健全育成に繋がると思う。(46年, 不明段)
- ・武道を通して、打たれる痛みを知る事により周りの人に優しく接する効果怖くても逃げずに立ち向かう効果があると思います(43年, 3段)
- ・礼法や作法は学ぶべきかな、と思います。武士道はぜひ教えて欲しいです。(42年, 7段)
- ・授業のみという限られた時間では、技術指導にとどまり武士道精神的なものは学びきれないと思います。剣道の何を学ばせたいのか?を整理し内容を精査する必要があります。と思います。(47年, 7段)

- ・心技体の向上（54年，7段）
- ・自分を律することを学べる。（59年，5段）
- ・相手をおもいやる。日本の文化に触れる（41年，6段）
- ・剣道では指導が難しいと思う。（39年，5段）
- ・特にない（55年，7段）
- ・礼節を重んじることから、日本の文化や心が養われると思います。（39年，5段）
- ・時間が限られているので効果はあまり期待できない。（63年，7段）
- ・礼儀など日本文化を感じる（37年，7段）
- ・多種多様な文化と情報が手に入りやすい時代において、日本の文化としてアイデンティティだと教育されることは、沿うことにしろ、異なる考えになるにしろ、自身の判断の基準になる指針を与えていると思います。（42年，5段）
- ・武道を通しての日本文化。正しく生きること。（27年，6段）
- ・日本の伝統文化を重んじることができる。目上の人を敬うことができるようになる。（43年，6段）
- ・相手があるからこそ、自分が成長できること。相手の痛みを知ることができる。（41年，6段）
- ・礼儀作法，相手を重んじる心，集中力向上につながると思います。（12年，4段）
- ・礼儀作法（37年，3段）
- ・叩かれると痛いのが分かれば十分だと思っているが，中学生では遅く，小学校低学年から必修とした方が良くと思う（33年，0段）
- ・武道への興味関心日本文化への親しみ（46年，7段）
- ・相手を尊重する心を養える。（40年，7段）
- ・日本文化への理解の向上。（43年，2段）
- ・礼儀（42年，6段）
- ・経験したことのない，武道を経験できる（49年，7段）
- ・中学校体育において，怪我のリスクがあるが，柔道は準備がしやすく，お手軽に指導できるところもあり 体育教師自身も オリンピック等 見れば柔道は教えやすい。しかし 剣道は怪我のリスクはほとんどないが準備が大変でありさらに教えるのも大変なため，全体的に見ても富山県は柔道が多いと感じる。（27年，5段）
- ・臭い・汚い・痛いのが三拍子がそろっていますので全員が全員そうではないと思いますが，特に効果はないと思います。もしかするとマイナスな効果があるのではないかと思います。（40年，5段）
- ・武道における作法を学ぶことで，人や物との関わり方や日本文化を学ぶことができると思う。（34年，1段）
- ・なし（19年，4段）
- ・日本の文化に触れられる良い機会になる（33年，7段）
- ・礼儀，忍耐力，集中力（57年，7段）
- ・所作。（37年，3段）
- ・日本文化への理解（33年，4段）
- ・相手の痛みを知ることができる。立礼，座礼の仕方などの所作を学ぶことができる。（32年，6段）
- ・勝ち負けよりも，精神面を育てる指導になると良いと思います（33年，5段）
- ・礼節を通して武道の文化を学び，武道に触れる事で武道に興味を持ち，学ぶきっかけとなるかと感じる（48年，7段）
- ・相手を思いやる心（32年，7段）
- ・礼節，社交性，忍耐力，人間形成（59年，4段）
- ・自分を守る力（12年，3段）
- ・礼儀，姿勢等が変わると思います。（51年，7段）
- ・自分一人でなく，相手がいて成り立っていること。自分よがりでは，気遣いもできなくなってしまう。（14年，2段）
- ・礼に始まって礼に終わる事を周知徹底させる，相手に対する思いやりの心を持つ，一瞬の打突の必要生，研ぎ澄まされた心，が稽古次第で順次判って貰えると思う（63年，7段）
- ・礼儀作法。（35年，6段）
- ・礼節の取得（52年，7段）
- ・人間的な成長がみられる（22年，5段）
- ・正座や礼法を学ぶ事で日本の伝統を体験できる（35年，4段）
- ・基礎・基本（礼法）を学ぶことによって自然と礼儀作法が身につく。思いやりや気配りが身につく。（57年，7段）
- ・文化の理解，敬う心等（41年，7段）
- ・健康に対する意識。体力向上。自制心。（47年，5段）
- ・礼法を学ぶことで，セルフコントロールの力が身につくと感じた（36年，5段）
- ・礼儀作法，所作，心の健康，身体健康（63年，7段）
- ・必修化は必要であるが義務としてやっているようで武道専門の指導者もいないこともあり，指導者がいても初心者に技術指導に偏り本来の武道精神を指導しているか疑問？（54年，5段）

- ・日本人として誇りをもてる (37年, 7段)
- ・剣道とは、技術だけではなく、相手に対しての思いやり、礼儀等を、教える場だと思えます。(60年, 7段)
- ・日本の伝統に触れることで、自国について学べる。(9年, 3段)
- ・礼儀の大切さ (43年, 7段)
- ・正座や礼式を学ぶことで精神性が養われる。また、打突動作で相手を思いやる心(惻隱の情)を知る機会となる。打突部位を打つ集中力が生活に生きる。(55年, 7段)
- ・礼儀作法 (51年, 7段)
- ・歴史を考える (44年, 6段)
- ・礼儀作法やけがをしにくい体を作ることができるようになると思う。(48年, 3段)
- ・礼儀正しさ、忍耐力、集中力、相手への敬意や思いやりを育む効果があると思う (59年, 6段)
- ・心身の成長 (50年, 7段)
- ・(無回答)
- ・礼儀作法を学ぶ事ができる。また日本古来の刀の文化に接するきっかけになる。(42年, 6段)
- ・武道を通して、リアルな人との関わりを実感。協調性やコミュニケーション (47年, 2段)
- ・精神面をコントロールできるようになる (31年, 4段)
- ・上下の関係ができると思います。(65年, 4段)
- ・中学生はまだ成長段階なので、武道精神を学習する事でまたその経験が、成人し社会にでてから糧になると思う。(42年, 4段)
- ・日本文化の体験 (50年, 6段)
- ・相手を思いやる心の育成 (49年, 5段)
- ・礼儀作法等が身につく (43年, 8段)
- ・相手に対する思いやりの心 (54年, 6段)
- ・武道とは、と言われても人それぞれの武道の価値観があるので、一概には言えないけれど、自分のため人のため、いろいろ心使いが出来ると思います。(19年, 4段)
- ・礼儀、集中力、相手を思いやる、我慢強さ、内に秘めた闘争心 (47年, 3段)
- ・相手の気持ちを思いやる心や、礼節を学ぶ機会になってほしい。(42年, 7段)
- ・武道の歴史的な部分であったり、普段とは違う身体の使い方を学ぶことや集中力を養うことによって脳が刺激され学力向上へも期待できると思う。(30年, 5段)
- ・武道に対する興味付与 (61年, 7段)
- ・人を思いやる心が育つと思う (34年, 2段)
- ・人と人とのつながりや相手に感謝すること (39年, 4段)
- ・礼儀作法を学べる (56年, 5段)
- ・激しく打ち合い叩き合う競技ではあるが、その一方相手に対しての礼節を重んじ勝ちを誇示しないという考え方は自分以外の人に対して敬意を払うという日本人の国民性を作っていると考えている。(61年, 7段)
- ・集中力の向上と忍耐力、決断力の醸成。思いやりの心、感謝の心。(47年, 7段)
- ・入り口としての役割 (48年, 7段)
- ・武道は、守らなければならない秩序があり、いまの子供達には中々経験できないと思います。全員が、何かを得ているわけではないと思いますが、成長し役立つ事もあると思います。(24年, 3段)
- ・礼節 (41年, 7段)
- ・礼法の指導や相手への敬意を払うことを中学生という多感な時期に学習することは、生活のみならず生徒が行っているスポーツや活動の精神に繋がるものと思われる。(34年, 5段)
- ・礼儀作法、自己啓発につながる。(40年, 6段)
- ・競技性は勿論の事、精神的な面も学んで欲しいし、それらを活かしてくれればと思う。(43年, 7段)
- ・日常生活では触れる機会のない武道を学習することで、日本文化への意識を持てたり、興味の幅を広げられる。(2年, 2段)
- ・武道を通し、礼節を学べるのが一番大きいと感じます (42年, 7段)
- ・武道に対しての楽しさ、礼儀作法など社会に出ても使えることも多々あると思う。(25年, 3段)
- ・姿勢が良くなる身体的にだけでなく学ぶ姿勢など。(23年, 5段)
- ・人間形成 (48年, 6段)
- ・礼儀と集中力、敬う心 (60年, 5段)
- ・必修化になってから変わってくると思っていたが、何も変化がなかった。効果については解らない。(52年, 7段)
- ・礼儀作法が身につく、社会的に対人関係がスムーズにいった様に感じる。長年付き合っている剣道仲間が多数で人生の幅が出来た。(57年, 7段)
- ・礼儀から体得できる日本人らしさ (34年, 3段)

- ・日本人特有の徳育が習得出来る。(54年, 8段)
- ・中学生が体育の授業として触れる程度では体育の授業以上の効能はないように思う。(1年, 1段)
- ・武道とは、を知る(44年, 5段)
- ・相手を敬う気持ちを育む力がつく。(14年, 3段)
- ・武道の礼法や基礎を学ぶことで日本文化に触れ、刺激を受ける。(20年, 3段)
- ・精神力、体力の向上協調性の修得(56年, 7段)
- ・日本古来の文化に触れることができる。武道独特の身のこなしに触れることができる。(52年, 6段)
- ・礼儀作法。(45年, 4段)
- ・礼儀、話を聞く態度(29年, 4段)
- ・相手への敬意や礼儀(34年, 3段)
- ・声を出すことや礼儀作法(35年, 1段)
- ・痛みを知ることができる(38年, 6段)
- ・日本文化への関心と理解(50年, 7段)
- ・授業になければなかなかやる機会がないものだと思います。中にはもっとやりたい人が出てくるかもしれないし、そうでなくても打たれた痛みとか、発声する爽快感とか、やってみて感じることはたくさんあると思います。それらが何かのきっかけとなったり、役立つことがあるかなと思います。(24年, 5段)
- ・決まり事を守る事や協調性を学ぶ事ができる。(28年, 6段)
- ・礼儀作法を覚えられる(33年, 2段)
- ・礼儀作法(41年, 4段)
- ・礼儀作法が身に付く。身体の運用に意識が向く。素振り等により有酸素運動が自然に行われる。(30年, 5段)
- ・柔道や剣道は、相手に直接的にダメージ(投げる、押す、叩くなど)を与える。また、それを自分も受ける。武道の精神を学ぶ目的もあるが、現代社会において、子供が取っ組み合いのケンカをする機会も無い昨今。相手の痛みを感覚として経験する事も大事なのではないかと思う。相手の気持ちや痛みを考えられるようになるのでは？(7年, 3段)
- ・中学体育での内容では武士道精神は、学べない。(47年, 3段)
- ・上辺だけでは、なかなか伝わらないものがあると思います。(46年, 7段)
- ・相手への感謝の気持ち、自分との戦いであること(30年, 6段)
- ・礼儀作法など(37年, 4段)
- ・日本文化の理解(48年, 4段)
- ・日本の文化を理解出来る。相手を倒すことではなく、自分の課題に勝つことの意味を理解する。(54年, 6段)
- ・礼儀作法や、相手への敬意、尊重。(37年, 6段)
- ・武道の精神(41年, 6段)
- ・礼儀作法や、日本の文化に触れられる。(33年, 7段)
- ・まずは武道という未知の世界への抵抗がなくなってほしい。(32年, 5段)
- ・心身の錬磨(43年, 5段)
- ・礼儀作法と良い姿勢(61年, 2段)
- ・勝負を学ぶのではなく、日本古来の伝統文化である剣道を通じて、礼節、礼法を学び人間としての基礎を作りあげる効果があると思います。(48年, 6段)
- ・友人、目上の人、老人、年下の人などに尊敬できる様になる。そして礼儀作法がよくなる。(55年, 4段)
- ・効果は薄い(41年, 7段)
- ・痛みを知ることが出来る(6年, 1段)
- ・中学では遅い、小学生で教える方が良い(37年, 6段)
- ・学校教育のなかでは武道も一つのスポーツで武道ではない(5年, 3段)
- ・人と接する際の作法目的達成に向けたプロセスと努力周囲に対する感謝の気持ち(40年, 7段)
- ・礼儀作法と刀法の学び(52年, 7段)
- ・授業の時間だけ武道をやったところで、得られるものはないと思う。特に、自ら望んで武道をやりたいと思っていないと、効果はないと思う。(26年, 4段)
- ・礼儀作法が身につく(42年, 7段)
- ・相手を思いやる気持ちが持てる。(53年, 7段)
- ・効果はわからないですが、興味を持ってくれたらと思います。(35年, 6段)
- ・礼儀や相手を重んじる心(42年, 4段)
- ・体力の向上正しい思考力を身に着ける挫けない心を学ぶ(57年, 7段)
- ・日本の伝統的身体文化の体験(50年, 6段)
- ・思いやりの心(11年, 4段)
- ・礼儀が身につく(13年, 3段)
- ・礼節を通じて、人間関係、上下、同級生、後輩等の規律を学習してほしい。要望です。(51年, 7段)
- ・体育の先生が指導しているのであるならば特効果はない(43年, 3段)

- ・中学生は体も心も著しい変化のある時期だと思う。そんな時期に武道を学ぶことは大変有用であると思う。(35年, 5段)
- ・相手を敬う気持ち, 社会で生き抜く力が醸成されます。(47年, 7段)
- ・体力強化と忍耐力強化(36年, 5段)
- ・剣道の場合, お互いを竹刀で叩くので, 相手の痛みがわかるようになる(42年, 5段)
- ・体育の時間のみで技量をあげるのは難しいが, 礼法や道具(竹刀)の使い方などを学ぶことにより日本の文化や歴史も学ぶことができる。(30年, 6段)
- ・礼儀作法や, 姿勢を正す。また裸足での授業は, 心にも身体にもよいと思います。(30年, 6段)
- ・礼法や剣道に対する理解度が上がった事に効果を感じられる。(54年, 7段)
- ・日本の伝統文化を深く理解する。日本人としての自覚を高める。武道の基本を知る。(55年, 7段)
- ・自分を客観的に見るようになってくるようになると思う(45年, 6段)
- ・中学校の体育では効果は無いと思う(53年, 7段)
- ・市内の中学校では体育の先生が教えているので形だけでおわっているから効果なしです。(62年, 7段)
- ・効果が得られるとは思わない。(35年, 6段)
- ・あまり効果は無いと思います。(39年, 6段)
- ・3つあると思う。1つ目は, 日本独自の文化に親しむことにより, 理解を深められる。2つ目は, 人間として礼節, 相手へ思いやる心を育む必要があることを理解する。3つ目は, 武道独自の心技体の大切さを学ぶ。(13年, 3段)
- ・礼儀作法(47年, 5段)
- ・集中力アップ, 礼儀力アップ, 心と体の成長(43年, 7段)
- ・礼儀作法を学ぶことができる。(28年, 4段)
- ・向き不向きがあるので希望者だけでいいと思う。やりたくない人まで全員強制は違う。(1年, 0段)
- ・学校の授業だけではなかなか良さまでは伝わりにくいように思う。(46年, 1段)
- ・学校の授業だけではなかなか良さまでは伝わりにくいように思う。(46年, 1段)
- ・自信を持てるようになる礼節や作法を知ること出来る背筋を伸ばして大きな声を出せるようになる孤独や非行とは一線を画すことにつながると思う(46年, 6段)
- ・外側に反応しない胆力(47年, 0段)
- ・日本の文化を知る事, 礼節を学ぶ事。(65年, 7段)
- ・礼式(39年, 7段)
- ・直接, 指導していないので, 中学校の体育での武道を通じて効果がわからない。(45年, 8段)
- ・礼儀, コミュニケーション, 相手に対する思いやり(48年, 7段)
- ・体育の授業では, 技術的な側面より武道の成り立ちや歴史を学ぶことで, 単なる勝ち負けだけでなく, 精神的な部分が今後の成長に役立つと思う。(38年, 3段)
- ・先人の知恵を感じる事。(61年, 7段)
- ・日本の伝統文化にふれることができる。武道を知ってもらえる。(34年, 5段)
- ・あまり効果は無いと思う。授業としての武道は形だけでその中にある精神には触れないと思う。(46年, 2段)
- ・人に対して優しくする心が身につけられる(46年, 3段)
- ・礼儀(12年, 3段)
- ・礼儀作法など上下関係の人間形成を学んで理解してもらいたい(45年, 7段)
- ・人としてのマナーや礼儀などを学ぶことができ, 大人になるにつれて大変効果があると思う(24年, 5段)
- ・武道を始める入り口になる(58年, 7段)
- ・知らない世界に触れられて見識が広がる。礼儀作法が身につく。(39年, 7段)
- ・武道の存在を感じさせる(55年, 7段)
- ・礼節や痛みを知る事ができる。(22年, 3段)
- ・礼節や痛みを知る事ができる。(22年, 3段)
- ・やったことある。という経験ややってる人の凄さが伝わる。(3年, 2段)
- ・体育の授業で教えられることは少ないので, 少なくともポジティブな印象を持てるような体験を与えることができれば良いと思う。(58年, 7段)
- ・他のスポーツと違って, 礼儀作法を学ぶことができる。(61年, 7段)
- ・新しい興味掘り起こし今行っているスポーツへの応用(47年, 7段)
- ・心身の統一した人間(68年, 7段)
- ・自分自身に負けない。他人を尊重して迷惑をかけない心を育てる。(48年, 3段)
- ・日本の伝統文化を体験できる良い機会とは思いますが, これをきっかけに武道の道へ歩んでもらえたらと。(41年, 6段)
- ・礼儀正しくなる(37年, 2段)
- ・礼儀挨拶道徳体の健康(50年, 7段)
- ・果たして, 授業時間程度でどんな効果を求めるのかお聞きしたい。(63年, 7段)

- ・相手の気持ちに立って考えられる機会を与えることができる武道は、とても良いと思います。また、勝ち負け以前に、お互い気持ちよく自分の力を試し合うということの素晴らしさを教えらるる指導者でありたいと思っています。(34年, 3段)
- ・礼法や忍耐力。(37年, 6段)
- ・忍耐力, 礼儀, 協調性, (46年, 7段)
- ・実情は、ほとんど実践されていないのでは?(57年, 7段)
- ・礼儀作法が身につくと思います。(27年, 4段)
- ・効果はあまり無いと思う。(56年, 6段)
- ・中途半端でほとんど効果はないと感じている。(50年, 7段)
- ・日本文化, 伝統, 精神性に接する機会となる。(48年, 7段)
- ・礼儀, 相手を敬う気持ちを養うことができる(41年, 6段)
- ・数年間授業に携わりましたが、礼儀作法や所作などを重点的に教えました。中でも正座のできない子供たちが多いのに驚きました。また、学校の体育の与えられた時間の中では、最後に試合までさせることは中々困難だと思います。試合を通じて剣道のスポーツとしての面白さだけを感じさせるのであれば良いと思いますが、武道を通じて最低限の礼儀作法や心の授業を行うほうが、今の中学生には大事だと思います。(52年, 6段)
- ・技術面よりも武道の精神的な部分を伝えることによって中学生に新たな人に対する考え方や礼儀作法などの様々な新たな気づきを得てもらえると思う(41年, 3段)
- ・相手がいることで出来る武道であること(29年, 3段)
- ・修練することの大切さ, 体力や礼儀を学べることと思う。剣道では発声することで現代の子供たちのストレス発散や新たな気づきが生まれると思う。(44年, 6段)
- ・相手を尊重する礼儀などを学べる(42年, 3段)
- ・礼節, 体力の維持, 人間関係, 自己啓発など(50年, 8段)
- ・伝統的文化の継承武道への親近感→野球やサッカーが人気となる世の中に対して(20年, 5段)
- ・礼儀作法を学ぶ機会になると思う。(24年, 4段)
- ・相手を想う・尊重する気持ち(34年, 6段)
- ・日本について知れると思う(31年, 4段)
- ・日本人としての誇りなど(38年, 5段)
- ・礼儀作法, 言葉づかい挨拶, 先生を敬う気持ち(60年, 7段)
- ・武道に接する機会を与える程度。(49年, 不明段)
- ・精神的な思いやりと礼儀作法が養われる(55年, 4段)
- ・自己中心的な考えだけでなく、人を思いやる精神を学べると思う(24年, 4段)
- ・礼儀, 忍耐(49年, 6段)
- ・健康・体力向上・礼儀作法(34年, 6段)
- ・わからない(30年, 4段)
- ・礼節, 責任感, 忍耐力(47年, 5段)
- ・侍スピリッツ(31年, 7段)
- ・礼儀正しくなる。心と身体が健康になる。根気と集中力が養われる。(56年, 2段)
- ・人の痛みが分かる人間になって欲しいと思うとともに、逆境にも立ち向かう強い人になってもらいたいと思うが、その効果については、どうなのかは正直分からない。ただ、せっかくやるのなら、経験がない教員の先生が指導するより、経験がある指導者にやらせるべきだと思う。必修になっているからやらなければならないとか、ただ時間を費やすだけの教科になるのであればそれはかなり勿体ないと感じる。(40年, 7段)
- ・正しい礼儀作法の修得により社会における人間関係を構築の一步になる(なつてほしい)(64年, 4段)
- ・礼儀作法, 正座等の必要性の理解(42年, 5段)
- ・1対1で向き合うことの難しさと武道の精神を理解すると相手への感謝の気持ちを実体験出来る。(56年, 7段)
- ・真面目に取り組む子供とそうでない子供の両極化が形成される不安がある。(54年, 7段)
- ・忍耐力と観察力がつく(31年, 1段)
- ・社会が変わっていく中、日本古来の武道を通じて日本人としての生き方を少しでも携えて欲しい(41年, 7段)
- ・得られる効果は微々たるものかもしれないが、様々な可能性につながる体験は貴重であると考え。(45年, 7段)
- ・礼や作法を重んじることにより、人を尊重することや、日常生活では得られない伝統文化に体験的に接することで、人としての成長や新しい世界に触れる事ができる。(58年, 7段)
- ・(無回答)
- ・日本文化を知る(42年, 4段)
- ・礼儀作法(36年, 3段)
- ・礼儀作法相手を思いやる心(27年, 6段)

- ・ 相手や先生がいて初めて成り立つこと、自分ひとりでは何も出来ない事を知る（46年、2段）
- ・ 前述しました通り、日本古来の伝統文化道徳でありますから礼節や信義を重んじること、誠を尽くして徳を積むこと等、現代で失われつつある態度教育を育むには最適であると思います。（51年、7段）
- ・ 非行に走らない。（57年、7段）
- ・ 人言形成（27年、5段）
- ・ 礼儀や動きなどを学び、日常生活などに生かせる経験があることだと思います。（16年、4段）
- ・ 武道にもよりますが、実際に自分の身を守る事、又は精神的に強くしてくれる事、汗をかいて、爽やかな気持ちになれる事（55年、7段）
- ・ 正しい礼儀作法の定着、武道に対する理解（34年、6段）
- ・ 相手と向き合うことができるようになると思います。（50年、7段）
- ・ 社会性の向上（35年、4段）
- ・ 身体能力問わないので、経験なくてもそこそこできる。（17年、2段）
- ・ 目付、間合（40年、7段）
- ・ 人間形成（50年、7段）
- ・ 日本文化に触れる。武道の意義を理解できる。（43年、7段）
- ・ 日本の伝統を学び、また興味を持ち、伝統を受け継ぐ人々が出てくる。（36年、7段）
- ・ 日本の伝統的な運動文化の学習を通じて生きていく力などが身につくと思う。（54年、7段）
- ・ 本当の武道の心を教えるなら良いと思うが、今は戦後の軍隊が基本の考え方にあるので、そこは少し考えた方が良いと思う。（20年、3段）
- ・ 真剣勝負の難しさや楽しさ（負けた時の悔しさ。勝った時の喜びなど。）（7年、3段）
- ・ 日本文化の良さを感じる（58年、3段）
- ・ 礼や正座などの作法を身に付けることができる。日本の独特な文化に興味を持つきっかけになる。（49年、7段）
- ・ 年長者や相手を敬う気持ち礼儀、礼節が身につく、理解できる（3年、3段）
- ・ 日本人独特の礼儀作法の意味がわかりやすいのと、相手の心理的な動きがわかりやすいのかなと思います。（43年、4段）
- ・ 中学の数回の体育で武道をただだけでは子供達はなにもわからないと思う小学生の頃から体育で行うことによりもっと、武道を身近に感じてほしい（25年、4段）
- ・ 世の中にはこんな物があるという知識を蓄える（14年、3段）
- ・ 全身運動・筋力・瞬発力の強化・姿勢改善・調整力の向上・礼節の習得・集中力の向上（35年、6段）
- ・ 日本伝統文化の理解礼節思いやり（39年、7段）
- ・ 日本の文化を理解する心が育つ礼にはじまり礼におわる意味を理解する方でお互いを大切に心が育つ（16年、5段）
- ・ 相手を尊重する気持ちの醸成、礼儀を重んじる大切さなど（59年、7段）
- ・ 競う部分の他に相手との調和やひとに対しての興味が持てるようになっていくと思う（12年、5段）
- ・ 礼儀（69年、7段）
- ・ 日本特有の礼儀作法を学べる（42年、5段）
- ・ 武道を学ぶことにより、決められたルールに従い正々堂々と戦い、勝っても負けても、相手を尊重し敬う心が養われるとおもいます。（55年、7段）
- ・ 日本人としての嗜みに触れていただけるものと考え（58年、7段）
- ・ 目上や相手を敬うこと（48年、6段）
- ・ 集中力が身につく（40年、7段）
- ・ 効果が無いと思います。（56年、7段）
- ・ 礼儀と相手の事を思いやる事が期待できる（37年、5段）
- ・ 礼儀作法（54年、5段）
- ・ しっかりと取り組めば、精神的な落ち着き（30年、5段）
- ・ 指示通り正しく動かなければ怪我を伴う、させてしまう可能性が高い種目なので相手を重んじる動作や心を学ぶ事には効果があると思います（18年、3段）
- ・ 子ども達には、姿勢の美しさや、メリハリなど。所作のところを学んでほしいです。（28年、0段）
- ・ 相手を思いやる心が身につく（41年、3段）
- ・ 礼儀作法取得（32年、6段）
- ・ 護身術的な感じになるかもしれない。（29年、6段）
- ・ 怪我等の心配もあるので、必ずしも実技にこだわる必要はないと思います。武道から学ぶ礼儀などの人間形成に必要な事を教育するだけでも、将来に役立つと思います。（35年、4段）
- ・ 気概や規律性（40年、6段）
- ・ 日本の運動文化を認識できる。（51年、7段）

- ・これから先も子供が減っている今でもなんらかの武道には携わる時間は心の安定や精神力や忍耐力を、つける機会になると思います。(41年, 3段)
- ・礼儀正しさを、体力、心の強さ(34年, 0段)
- ・精神面が強くなると思います。(52年, 3段)
- ・上記に記したような、将来に向けて必要なスキルを沢山学ぶ貴重な機会だと思う。(44年, 4段)
- ・礼儀思い遣り心身の鍛錬(58年, 7段)
- ・女子は護身術が必要と思う男子は体幹の強化(42年, 4段)
- ・人間力人体力増強(60年, 5段)
- ・少ない単位なのであまり効果があるとは思えない。(40年, 6段)
- ・中学生に武道に携わる機会を与える意味では必修化されたことは良いと思います。しかしながら、武道の本質を考えれば、学ぶ側の心構えが必要不可欠であり、スポーツ競技の一つのように剣道体育や柔道体育を授業の1コマとして武道経験の無い或いは少ない教員が教えることは、中学生の貴重な時間を奪っているだけだと感じます。(36年, 5段)
- ・礼儀作法を重んじること。(22年, 5段)
- ・礼儀の習得、体力の向上(38年, 5段)
- ・効果は無いと思う(6年, 3段)
- ・真剣にやっていない子が多い為あまり効果はないと思います。(30年, 3段)
- ・日本の文化であることとそれを経験することができる。ただ奥深くまでは教えることはなく礼節や心構えまでは中々浸透しないと思う。(24年, 4段)
- ・道着、袴着装するところから、紐を結ぶ文化を学び、お相手を尊重する精神、文化を学ぶ機会になります。(50年, 7段)
- ・日本の伝統文化を体験し、礼の心を身につけることで日常生活の中に生きてくる。(19年, 5段)
- ・礼儀や感謝の気持ちを大切に、昔ながらの日本人の心を少しでも知り経験することで、自分の可能性を広げられるのではと思う。(51年, 6段)
- ・伝統文化を継承できる(49年, 7段)
- ・礼儀作法は身につくと思います。しかし、日々修練する事で武道が人間形成に寄与するものと感じており、数少ない授業の中で、どこまで武道の良さや理念が伝えられるか指導者が大変だと思う。(50年, 7段)
- ・武道に触れるなかで、どうして正座なのかなど、礼節などの意味を知れること(26年, 6段)
- ・ルールとはいえ、お互い痛みを伴うので相手のことを思うようになるのではないかと。(21年, 6段)
- ・相手を思いやる気持ちや、何事にも耐えられる気持ち等が養われる(48年, 7段)
- ・挨拶等相手に対する思いやり(44年, 7段)
- ・礼儀、所作の重要性(48年, 6段)
- ・日本文化の継承(48年, 7段)
- ・日本の文化に触れるいい経験だと思います(55年, 7段)
- ・礼節を学ぶ機会になる(28年, 5段)
- ・自国文化への理解が深まる(31年, 3段)
- ・相手の立場に立って考えるということを考える、日本の伝統的な作法を学ぶことができることで、日本人として必要な要素を学べると考える。(14年, 4段)
- ・教える先生にもよると思うが、現代においてはほとんど効果は無いと考える。日本古来の文化を知ることではできるが、体育の授業程度で武道で大事な精神性などまで伝え実践し効果が出るどころまでのことは教えられないと考える。(34年, 2段)
- ・分かりません。(53年, 7段)
- ・あまりなんらかの武道だからこその効果があるとは思えない(51年, 7段)
- ・集中力、体力の向上(41年, 4段)
- ・礼節を重んじる(44年, 7段)
- ・心が成長する。心身ともに丈夫になる。(35年, 7段)
- ・武道以外のスポーツでも体力を養ったり、礼儀を学ぶことはできますが、武道においては、海外でも盛んに行われている中で日本が強いので、日本人としての誇りを得ることができ、自信にも繋がると思います。体の大きさが物を言うスポーツの世界大会などを見ていると、日本人は何もできないという自己嫌悪になってしまう方もいると思うので。(25年, 3段)
- ・挨拶や礼儀、相手を思いやる気持ち等が身に付くと思います。(53年, 6段)
- ・国技への理解(27年, 1段)
- ・いざという時の身を守る術になるかもしれないあと、武道を通して技術だけでなく礼節も一緒に学んでくれたらなと思います(29年, 0段)
- ・効果云々は全く指導者による。(28年, 6段)
- ・日本の文化に触れる機会としては大切だと感じます。一方で礼に始まり礼に終わるなどの、考え方にに関して中学生に考える機会の提供ができるかは人それぞれですが、響く子は少数派だと思います。(24年, 5段)
- ・精神力の向上(24年, 2段)

- ・とくに何もない。指導者がただの体育の先生でやらなければならないからやってる感がある。現場を見ているがただの退屈な運動の感じになって、魅力や、興味を削いでいる。真剣に正しい指導者が行ってこそ、楽しさがある。(34年, 3段)
- ・剣道が出来ることに、感謝する気持ちがもてるようになる。(55年, 6段)
- ・精神の落ち着き, 集中力, 体力の向上(53年, 7段)
- ・礼節を学べる事や, 日常での生活態度の変化が期待できる。相手がいての武道だと, 相手を思いやる気持ちが, わかる。(40年, 5段)
- ・身体能力向上. 集中力向上. 礼儀作法の習得。(41年, 3段)
- ・礼儀, 協調性, 精神力(56年, 7段)
- ・スポーツの中でも”精神面を重視したスポーツ”として特異性を認識させ, 日本の文化に根差す一端を垣間見, 理解することが出来る。(61年, 6段)
- ・効果はない。理念等を教えないと他のスポーツを授業ですることと同じ。(24年, 3段)
- ・人を思いやる心を育み, 心優しく, 精神的に強い人になれると思う。(48年, 3段)
- ・日本の文化を学ぶ(47年, 4段)
- ・日本文化の理解につながる。近代スポーツとは異なる多様なスポーツへの理解につながる。(40年, 4段)
- ・思いやり(不明年, 7段)
- ・伝統文化と礼儀(49年, 7段)
- ・日本の伝統文化を体験できるよい機会になっている(12年, 3段)
- ・礼儀作法の学び(34年, 5段)
- ・入退室の礼儀から, 相手への思いやりや感謝を学べる(21年, 2段)
- ・打たれたら痛い。相手の痛みがわかるようになる(29年, 5段)
- ・礼儀作法が身につく(1年, 1段)
- ・武道の歴史(40年, 6段)
- ・礼儀作法, 相手への思いやり, 感謝の気持ち(36年, 7段)
- ・日本の伝統文化の理解(48年, 6段)
- ・自己研鑽が出来る力が身につく事を期待します。運動能力も高まると思います。(6年, 3段)
- ・礼儀作法日本文化を学べる(50年, 7段)
- ・日本人としての礼節の習得(13年, 5段)
- ・日本人の精神性を体験することができる。(46年, 7段)
- ・努力すれば結果が出ることもあるので, あきらめないで続けることが大事と感じてほしい(34年, 6段)
- ・今の必修化の現状は効果を上げているとは思えない。(53年, 6段)
- ・多くの剣友達と出会えた!(49年, 7段)
- ・礼法の指導を通して, 人との関わり方を学ばせる事ができる。(43年, 7段)
- ・自立心や困難に対する耐性など。(2年, 1段)
- ・礼儀(46年, 7段)
- ・相手への感謝, 礼儀作法, 日本の伝統文化を学ぶ良い機会だと思う。(41年, 7段)
- ・当たり前の礼儀(58年, 7段)
- ・集中力の向上(47年, 7段)
- ・精神的な成長が期待される。(63年, 6段)
- ・相手を重んじる事と礼儀の習得(39年, 6段)
- ・教え方によるが, 礼節を重んじる心を育む効果(51年, 3段)
- ・礼儀作法(33年, 5段)
- ・多くのスポーツのように相手に対する勝ち負けだけでなく自分との戦いがあること, 強くなって終わりではなくその先の長い道があること, 歴史があることなどを知り, 価値観に深みを増す効果。(23年, 5段)
- ・日本文化, 歴史, 礼節, 惻隠の心等の習得(55年, 7段)
- ・危機管理能力, 処世術が身につくと思う。(39年, 5段)
- ・敬いの心, 相手の事を考えられるようになると思う(46年, 7段)
- ・体の使い方を学ぶ(40年, 4段)
- ・怪我の防止, 礼儀等(50年, 6段)
- ・人間形成が切り開けるきっかけになるはずです。(52年, 5段)
- ・わからない(28年, 5段)
- ・うまく指導できれば, 身体と心の動きが連動する感覚を得られること(29年, 4段)
- ・武道は日本の心である。日本人の精神を学べる。(41年, 5段)
- ・基礎体力の向上と相手との間合いが稽古の繰り返しにより身につく。(59年, 5段)
- ・人とぶつかり合う経験(19年, 4段)
- ・(無回答)
- ・日本の文化にふれる良い経験になる(39年, 4段)

- ・義務教育が最後なのもあり社会に出ていく第一歩として礼儀や縦社会を学べる大事な3年間だと思う。(36年, 5段)
- ・礼儀礼節(18年, 5段)
- ・体育の時間だけでは打った打たれた, 痛い臭いの思い出しか残らない少ない時間のようと思う。1番の魅力は, 長時間自分に向き合う稽古を行うことで得られる技術向上であると思うので。(31年, 5段)
- ・礼儀, 相手を敬う心(47年, 7段)
- ・礼儀作法に触れ, 相手を敬う意義を知り, 身体と精神に豊かさをもたらすと考えます。(43年, 5段)
- ・教える先生による(15年, 5段)
- ・ひとつ目は礼節が身につく事です。ふたつめは, あらゆる苦難を乗り越えるための強い精神力が鍛えられると考えます。(38年, 3段)
- ・実際に現場の意見として, 体験をする程度です。生涯スポーツの1つの体験ができるという程度です(34年, 5段)
- ・礼儀作法, 日本独自の文化である, 暑中稽古や寒稽古等の稽古方法を, 学ぶことにより, 多様な価値観が身につく。(44年, 5段)
- ・日本の文化を知るきっかけになる。(42年, 5段)
- ・武士道=道徳の気づき(51年, 7段)
- ・心と体の生育(45年, 1段)
- ・体育は種目により, 生徒それぞれに得手不得手がある。武道だけではなく, どの種目も共通に健康的な生活を送るための生涯体育の意識をもつことが目標である。(49年, 5段)
- ・技術取得, および向上もそうですが, やはり人を敬う, 感謝するといった心の成長に効果があると思います。(14年, 5段)
- ・効果はない(47年, 7段)
- ・社会に出た時に必要な礼儀作法, 日本特有の動きや精神性を学ぶことができる。(14年, 5段)
- ・勝利至上主義者ばかりの業界での指導で, 本質についてのしっかりとした指導がなされておらず, 効果はない。(44年, 4段)
- ・ただのスポーツのお遊び(44年, 5段)
- ・相手があってこそその自分ということを知ることが分かって頂ければ良いかと思います。(37年, 6段)
- ・忍耐力(26年, 5段)
- ・心の鍛錬, 礼儀(礼に始まり礼に終わる)(46年, 6段)
- ・中学, 高校で武道系のクラブ活動に興味を持つきっかけになる(50年, 6段)
- ・礼節(44年, 4段)
- ・礼儀を学び, 心身を練磨できる。(22年, 4段)
- ・スポーツとの違いについて考える(32年, 5段)
- ・中途半端であり意味がない。人が付けた面, 小手は不潔。(24年, 4段)
- ・克己心を習得し, 社会に役立つ人間になるべく修養できる(50年, 6段)
- ・時間的, 内容的な制約から, あまり効果が無いように思います。(48年, 6段)
- ・日本の武道について知ることができると思います。(33年, 6段)
- ・心身共に健康で物事礼に始まり礼に終わる事を教示する事により改めて新鮮さを感じている様に感じられる(63年, 7段)
- ・礼儀(33年, 5段)
- ・思春期において, 日本の文化について, 武道を通じて学ぶことで, 机上とは異なる視野を広げて, 思いやりの心の醸成ができるようになります。また, 剣道の理念である剣の理法の修練による, 人間形成の道において, 学校の授業でも成長できるものと思います。(41年, 7段)
- ・礼儀作法, 精神の鍛錬, 考える力など(45年, 6段)
- ・日本の文化に触れることができる(50年, 7段)
- ・剣道の場合, 竹刀で人を打つことがあります。年齢差や性別によって力の強さが違うため, 相手を思いやる気持ちが芽生える可能性があるかと思います(47年, 7段)
- ・相手を重んじる, 尊重する気持ちを得る(27年, 5段)
- ・武道とスポーツの違いについての考え方, また礼節が重要との理解(41年, 7段)
- ・10の回答と同様(45年, 5段)
- ・礼儀正しくなると思う。(53年, 5段)
- ・武道を通じて正しく養い, 子供達には礼儀を重んじ成長してくれる事を期待しています。(47年, 7段)
- ・武道は, 日本古来の伝統文化と考えています。今の子供達には, 形ばかりの挨拶ではなく心からの礼節が必要かと考えられ武道は人間形成が成熟出来ると思います(46年, 6段)
- ・忍耐力, 礼儀, 自己の弱さ克服(54年, 6段)
- ・礼儀作法(56年, 7段)

- ・現状どのような形で必修されているのか具体的にはわからないので効果があるのかは不明。(40年, 5段)
- ・日本文化の浸透のみ。(27年, 0段)
- ・礼儀作法が学べる。日本人のアイデンティティが学べる。(39年, 1段)
- ・礼儀作法周囲への配慮(26年, 5段)
- ・礼儀作法(36年, 2段)
- ・礼儀作法や相手を思いやる心の醸成に効果があるのではないかとと思う。(35年, 3段)
- ・礼儀作法など(18年, 3段)
- ・正しい方法で学ぶことができれば, 身体操作について色々と学ぶことができると思う。(13年, 0段)
- ・日本の伝統文化という固く感じてしまうかもしれませんが, 生涯スポーツとしても武道(剣道)は学ばせてあげたいと心から思います。厳しい稽古や仲間との信頼関係を通じて, 人間形成を高めていってほしいと感じます。(43年, 6段)
- ・日本文化を知る(47年, 3段)
- ・人との距離感を学ぶことができる。(0年, 0段)
- ・日本文化に触れること(35年, 5段)
- ・日本の武道というものを経験することにより, 相手への礼儀というものを意識することができると思う。(50年, 7段)
- ・大前提, 礼法を身につけることができる。またそこをこだわって指導していかなければいけない。(33年, 7段)
- ・相手を敬い振る舞う文化は, 日本特有であると思います。そうした心構えは日本人の良い点でもあります。しかし, 近年は, 日本の文化や特性が薄れてきており, 自分ファーストな考えが強くなってきています。悪いことではありませんが, 相手を思いやる気持ちは忘れてはいけません。そうしたことを生徒に伝える機会として, 武道の学習は有効と思います。(33年, 7段)
- ・形式的な武道の修養は本来の武道の効果が得られるとは思わない。ただし, 興味を持つきっかけにはなり得るので, 武道人口の増加とその後の修養の成果を期待する(42年, 5段)
- ・日本の伝統に関わる良い機会になる。(42年, 7段)
- ・他者との関係が希薄になりつつある現代社会において, 相手と真剣に相對することにより, 人と人のつながりを体得することができる。また, 授業を通して人の痛みを身を以てわかることができ, 思いやりのある生徒の育成に寄与できる。(19年, 2段)
- ・教え方による。上記効果のうち, 所作及び基礎体力の面では一定程度の効果があると思うが, そのほかについては指導者及び指導時間に依存すると思われる。(40年, 5段)
- ・考える力(46年, 6段)
- ・その武道に対する知識や経験が向上する。体育の武道を学習したからといって, その武道特有のさまざまな効果は得られないと思う。(37年, 6段)
- ・相手がいないと出来ないのだから, 相手(関係する人)に感謝することを期待している。親, 兄弟姉妹, 友人等に。(36年, 3段)
- ・日本伝統文化継承(46年, 7段)
- ・礼儀作法(52年, 5段)
- ・武道の特性(礼儀作法や所作)は表面的に指導は出来ていると思う。技術的には初歩の初歩程度しか指導は出来ないと思う。時間的に効果があるのか不明だと思う。(48年, 7段)
- ・ほとんどない(64年, 8段)
- ・礼儀の習得, 武道への理解が深まる(40年, 5段)
- ・礼儀作法を学べる。(14年, 3段)
- ・技術的なことではなく, 伝統的な日本文化に基づく礼儀作法, 所作などを中心に教える指導が大切だと思います。中学生にはなかなか難しいとは思いますが, 授業なので, そこが中心かと思えます。(58年, 6段)
- ・大変いいことだと思います。もっと剣道を取り入れて欲しいです。私も授業協力者として関わりました。子どもたちの笑顔が良かったです。感謝, 人を思いやる気持ちがあったと思えます。(63年, 7段)
- ・精神的な成長(53年, 6段)
- ・礼儀作法とその意味を知ることができる(18年, 3段)
- ・自分で考え, 自分で判断する力を身につけることに最適(45年, 4段)
- ・武道の本質の学び(51年, 7段)
- ・武道を体感できる機会ができること。(42年, 7段)
- ・礼儀や相手に対する関わり方, 考え方, 相手を思いやる心を学んでほしいです(42年, 5段)
- ・大きい声を出す効果がある(26年, 5段)
- ・礼儀と相手を思う気持ちを養って欲しいです。(37年, 4段)
- ・日本の伝統文化を学ぶ良い機会だと思う。(38年, 5段)

- ・『必須』にすることについては良い効果ばかりとは思わない（41年，6段）
- ・礼儀正しく行動する事を身につける．伝統に触れる．（11年，3段）
- ・回数もそれほど多くないので効果を得るのは難しいと感じる．ただ，興味付けの要因には，なるかと思う．（51年，3段）
- ・礼儀など身につく．（32年，3段）
- ・正しい礼儀が身に付く確率が高い（53年，5段）
- ・日本古来の運動に触れることができる（11年，2段）
- ・日本の1つの伝統がどのようなものを体感してもらうことに意味があると思います．（26年，2段）
- ・礼儀と精神面において，効果があると思います．（16年，5段）
- ・特にありません（44年，5段）
- ・教え方が重要なのでよくわからない（48年，5段）
- ・忍耐力，自制心，反射神経の向上．（58年，7段）
- ・体力がつかます．（59年，5段）
- ・礼儀，心の落ち着き（50年，7段）
- ・礼儀・思いやり・努力・自立心といった，人として大切な資質を育むことができる．（54年，7段）
- ・日本の伝統に触れる 礼儀作法（24年，5段）
- ・互いを尊重すること痛みを知る（47年，6段）
- ・上記10．の効果に加えて，部活動の優良な成績による名門高校・大学進学など，児童の将来の進路の拡充化（10年，3段）
- ・言葉とは違うコミュニケーション力の醸成に寄与すると思います（48年，7段）
- ・日本の伝統文化や礼儀作法の習得することで堅実な人間形成を培うことができると思う．（32年，6段）
- ・日本固有の精神と所作を伝えることができる．（21年，4段）
- ・武道精神，礼儀，武道の歴史（52年，7段）
- ・礼法，感謝する心（45年，7段）
- ・あまり効果があるとは思えない（37年，4段）
- ・私の中では，柔道はオリンピック等で目にする機会があるせいか敷居がそこまで高くない感じがするがその他の武道に関してはやはり他のスポーツと比べて敷居が高いイメージが世間一般的に強いと思う．学校で積極的に関わる事でもっと武道を身近なものであると感じて欲しい．（28年，4段）
- ・正直，効果を感じていません（34年，5段）
- ・わからない（42年，6段）
- ・武道を通じて美しい作法の所作を少しでも身につけられて，強い心と強靱な身体での成長を促す事ができると思います．（43年，5段）
- ・礼儀を重んじる（53年，7段）
- ・礼儀作法（42年，3段）
- ・わからない（55年，7段）
- ・挨拶，礼節を重んじる精神が芽生える（40年，5段）
- ・日本人としての礼儀，作法，他人を思いやる気持ちなどが養われる．（50年，6段）
- ・礼儀作法，日本の文化を学ぶのに良い機会である．（1年，1段）
- ・型から実践することで，自分と相手の関係性が理解出来る．（65年，7段）
- ・たった数回の授業で効果が得られるかどうかは，授業者から武道の理念が中学生に伝わるような授業作りができるかどうかだと思う．また，体育で行う場合，ほとんど又は全員が未経験者のため，相手との合気は欠かせない．そういった学習活動を通して，道徳心の向上礼節を重んじる相手を尊重する集中力が高まるといった効果が考えられる．（36年，6段）
- ・相手と対峙する・向き合うという事を感じられる．（46年，6段）
- ・日本古来の礼法を学習する機会になる．（58年，7段）
- ・体の成長段階において心身を鍛えることがとても大事だと思います．一つのことに熱中させることがとても大事な事だと思います．（60年，7段）
- ・普段できない，礼節や武道の歴史を学ぶ事が出来ると思います（26年，5段）
- ・礼儀を身に付けるきっかけとなると思います（32年，5段）
- ・基本的な礼儀作法，平常心を身につけることができる．（47年，7段）
- ・今は寂しい世の中になり，あいさつもしない，近所付き合いもない．そのような世の中で，真の人間性や礼儀作法などの効果があると思う．（38年，6段）
- ・責任感，礼節，忍耐力，協調性の育成（49年，7段）
- ・礼儀作法や，相手への敬意（32年，3段）
- ・剣道を学び，心を学んで欲しい（47年，7段）
- ・礼儀作法の習得（33年，6段）
- ・礼儀（27年，5段）
- ・礼儀が正しくなる．身体を鍛えることができる．相手の人格を尊重し，感謝の念をもてる．正しい心を持つことができる．（59年，5段）
- ・伝統的な物に触れる機会が増える（38年，4段）

- ・ 武道に対する理解（52年，7段）
- ・ 自分の痛み，相手の痛みを知り，仲間を思いやる気持ちが育まれるのではないか。（8年，2段）
- ・ 十分な指導者がいれば効果はあるが，それ以外では効果はないと思う（23年，6段）
- ・ 礼儀作法とか普段の言動を考えるきっかけになると思います。（10年，2段）
- ・ 礼儀作法の修得と精神力，忍耐力の涵養（34年，6段）
- ・ 良くわからない（58年，7段）
- ・ 相手と対峙して，何かをすることはあまり多いことではないと思う。もしかしたら人によっては人生で一度もないことかもしれません。もちろん弓道では自分自身と向き合うという考えになるかもしれませんが。その中で対峙して距離感や間合いを学べたら武道の良さになるのではないかと思う。あくまで怪我をさせない柔道，防具を付けての剣道は安全面に配慮されている状況で経験できることが効果とれます。（29年，6段）
- ・ あまり感じない。（45年，7段）
- ・ あくまで私の周りですが，あまり効果が出てるように思えません（53年，5段）
- ・ 正座や礼など近年保護者に教えられない人が増えている中で，礼儀作法を教えるいい機会だと思う。（29年，4段）
- ・ 今後ますます進むであろうAI時代において，人と人が互いに切磋琢磨していく剣道等武道を通じて，本当の人間力，人間味を学んで欲しい。要領よく，効率的にとすることがあまりに正当化される風潮の中，寒い中寒稽古をする，武道館の理屈には合わないような稽古を体験することの大切さ，そこで初めてわかる何かを感じて欲しい。中学部活の地域展開に仲間とともに，しっかり関わっていく準備を始めている。（59年，7段）
- ・ 相手に感謝し，敬う心が養われる。きちんと挨拶をすることをおぼえる。心と身体の痛みを感じることができる。（51年，7段）
- ・ 礼法（46年，5段）
- ・ あれくらいの内容では特に何も身につかないと思います（25年，2段）
- ・ 現代では正座をする機会があまり無いように思います。正座をして，かけられた号令の通りに礼をしたり，黙想をしたりすることは，何かを考えるというわけではありませんが，心を落ち着かせます。また，練習も試合も，相手がいなければ成り立たないことがあると感じることに繋がると思います。（11年，3段）
- ・ 礼儀正しくなる。（59年，7段）
- ・ 10に同じ（33年，3段）
- ・ 大きく言えば，日本の伝統文化細かく言えば，日本人としての考え方（美学）や所作（27年，5段）
- ・ 礼法を習得することで，今後の社会貢献に役立ててほしい。（49年，5段）
- ・ 技術面でなく，精神面の修業が有効，かつ効果的ではないかと考えます（44年，7段）
- ・ 心身の強化（42年，7段）
- ・ 礼儀を身に付け，体力，気力を養い人とのまじわりをスムーズに行える（69年，7段）
- ・ 中学生の事業の一環程度ではなんら効果はないと思います（43年，7段）
- ・ 礼儀作法・忍耐力・精神力・集中力・体力（45年，7段）
- ・ 礼儀作法を身につける事が出来る（58年，7段）
- ・ 礼儀等は効果があると思う。（42年，5段）
- ・ 上記10の回答に同じ（61年，7段）
- ・ 他のスポーツとは違い，神前や指導者への礼儀を重んじる武道は学生にとってわざわざわたくしにも，新鮮な気持ちにさせると考える。（36年，5段）
- ・ 礼儀作法の習得日本の文化を理解する（12年，3段）
- ・ 武道の歴史を学ぶきっかけになると思う（15年，4段）
- ・ 体力がつき，集中力や礼儀作法が身につく。礼儀作法が身につくことで人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上にもつながる。（37年，7段）
- ・ なかなか知られていない武道ですが授業をやって知る子が増えていってくれると思う（33年，5段）
- ・ 礼儀や体力の向上（37年，5段）
- ・ 打たれたら痛いということがわかる（36年，6段）
- ・ 礼儀作法を身につけることができ，相互を思いやったり，相互の痛み（心の内，どの程度の攻撃で怪我をさせてしまうか）等が分かるようになる（38年，7段）
- ・ 日本文化への理解が深まる（10年，3段）
- ・ 武道の学習をすることで，日本が築いてきた歴史と強く関わることで効果があると考えます。剣道は武士からのヒントを得て成立した武道のため歴史の授業で習う内容と関連付けることによって，過去と現代の架け橋的存在となり，より深い学びに繋がるのではないかと思います。（10年，3段）
- ・ 礼儀作法を正しく学んだり，心技体を鍛え，人格を磨くきっかけになると思う（29年，5段）

- ・ 礼儀が正しくなると思います。（19年，5段）
- ・ 成長の実感，自分の限界を乗り越えることで，忍耐力や集中力が養われる（6年，3段）
- ・ 礼儀の重要性（34年，7段）
- ・ 礼儀と人に対する思いやりの心を得ることができる（37年，5段）

武道経験と国民性に関するアンケート調査

調査報告書

発行日 2026年3月20日

編集者 国立大学法人鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系

教授 北村尚浩

発行者 国立大学法人鹿屋体育大学 生涯スポーツ研究室